

子どもの気持ち・あなたの子ども観アンケート
調査結果に関する報告書

札幌市子どもの権利条例制定検討委員会中間答申書別冊

平成 17 年 12 月 27 日

札幌市子どもの権利条例制定検討委員会

目 次

序 章	はじめに	
第 1 章	調査の全体像	1
	1. 調査の目的	
	2. 調査の全体像	
	3. 集計・分析上の注意事項	
第 2 章	子ども(懇談会・出向き調査)の調査結果	
	1. 回答属性	
	(1) 調査地点と回答数	3
	(2) 年齢	4
	(3) 性別	4
	2. 自分のことが好きか	5
	3. 落ち着く場所、好きな所	5
	4. 楽しく、ほっとする時	7
	5. 本当は「やりたいこと」と思っているのに、できないこと	
	(1) 「やりたいこと」と思っているのに、できないことの有無	9
	(2) 「やりたい」と思っているのに、できない理由	9
	6. 大切だと思うこと	10
	7. 大人にしてもらいたいこと	11
	8. 今、悩んでいること	12
	9. 困っているときに相談する人	13
	10. 現在感じている子どもの姿	14
	11. 「子どもの権利条例」づくりの認知度	16
第 3 章	大人(懇談会・出向き調査)の調査結果	
	1. 回答属性	
	(1) 調査地点と回答数	17
	(2) 年齢	18
	(3) 職種等	18
	(4) 性別	19
	(5) 婚姻	19
	(6) 子どもの有無	19
	2. 子どもにとって一番大切だと思うこと	20
	3. 子どもにしてあげたいこと	21
	4. 子どもたちに欠けていると思われる環境	22
	5. 現在感じている子どもの姿	
	(1) 現在感じている子どもの姿	23

(2)子どもに関しての意見について.....	24
6. 「子どもの権利」の認知度.....	24
第4章 大人(私立幼稚園PTA)の調査結果	
1. 回答属性	
(1)調査地点と回答数.....	25
(2)年齢.....	25
(3)性別.....	25
(4)婚姻.....	26
(5)子どもの有無.....	26
2. 子どもにとって一番大切だと思うこと.....	27
3. 子どもにしてあげたいこと.....	28
4. 子どもたちに欠けていると思われる環境.....	29
5. 現在感じている子どもの姿	
(1)現在感じている子どもの姿.....	30
(2)子どもに関しての意見について.....	31
6. 「子どもの権利」の認知度.....	31
第5章 子ども(児童会館・青少年センター・子ども会リーダー研修)の調査結果	
1. 回答属性	
(1)回答数.....	32
(2)年齢.....	32
(3)性別.....	33
2. 自分のことが好きか.....	34
3. 落ち着く場所、好きな所.....	34
4. 楽しく、ほっとする時.....	36
5. 本当は「やりたいこと」と思っているのに、できないこと	
(1)「やりたいこと」と思っているのに、できないことの有無.....	38
(2)「やりたい」と思っているのに、できない理由.....	38
6. 大切だと思うこと.....	39
7. 大人にしてもらいたいこと.....	40
8. 今、悩んでいること.....	41
9. 困っているときに相談する人.....	42
10. 現在感じている子どもの姿.....	43
11. 「子どもの権利条例」づくりの認知度.....	45
第6章 自由記述	
1. 小学生の自由記述.....	46
2. 中学生以上の自由記述.....	48
3. 大人の自由記述.....	50
第7章 調査結果の考察	
1. 子どもの調査結果(第5章)の考察 ~ 「札幌の子ども像」 ~	53
2. 大人の調査結果(第3章)の考察 ~ 札幌の大人の「子ども観」 ~	55

はじめに

「札幌市子どもの権利条例制定委員会」(以下、検討委員会という)では、子どもの権利条例策定に向けた取組の一環として、平成 17 年 7 月から 10 月にかけて、懇談会と出向き調査を実施しました。

懇談会と出向き調査の実施にあたっては、参加者の協力を得て、検討委員会が作成したアンケート調査(「子どもの気持ちアンケート」、「あなたの子ども観アンケート」)への回答をいただきました。

さらに、検討委員会が作成した「子どもの気持ちアンケート」については、札幌市内の全ての児童会館(ミニ児童会館を含む)・青少年センターを利用する小・中・高校生等、および、子ども会リーダー研修に参加した小・中・高校生を対象として実施しました。

なお、出向き調査の一環として私立幼稚園 PTA 協議会の催事に参加した方に行ったものについては、回答者数が多く、また回答者が 30 代の女性に集中しているため、別集計としています。

本報告書は、これらの調査結果をとりまとめたものです。今回のアンケート調査の有効回答数は、小中高生 4,663 件、大人 1,823 件で、合計 6,486 件です。

検討委員会では、今回の調査のうち、子どもに対する調査については、札幌市内の全区をカバーして行われた児童会館(ミニ児童会館含む)・青少年センター利用者、および、子ども会リーダー研修参加者を対象とした 4,232 人の調査結果が「札幌の子ども像」を概ね代表していると考えています。

また、札幌の大人の「子ども観」については、懇談会及び出向き調査に参加し、アンケートに回答していただいた大人 748 人の結果から、その一端を読みとることができると考えています。

子ども・大人のいずれの場合も、質問紙法によるものですが、選択肢と自由記述の 2 つの形式を用いています。検討委員会としては、今回の調査結果から札幌の子どもたちの実態と保護者等大人の子ども観を知る貴重な手がかりを得ることができました。

本調査結果につきましては、本年 12 月の中間答申へ反映させるとともに、今後の子どもの権利条例案作成の過程においても大いに活用していきたいと思えます。

平成 17 年 12 月 27 日

札幌市子どもの権利条例制定検討委員会
副委員長 尾 谷 正 孝

第1章 調査の全体像

1. 調査目的

現在の子どもの姿や考えていることを把握し、「子どもの権利条例」づくりのための基礎資料とすることを目的とした。

2. 調査の全体像

調査の全体像は、以下のようになっている。

	調査概要																						
子ども（懇談会・出向き調査）の調査結果	<p>1) 調査対象 懇談会および出向き調査に参加した小学生と中学生・高校生</p> <p>2) 調査方法 直接配布・直接回収</p> <p>3) 調査期間 平成17年7月～8月まで</p> <p>4) 回収状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>回収数</th> <th>有効回答数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">小学生</td> <td>273 (63.3%)</td> <td>273</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">中学生以上</td> <td>中学生</td> <td>92 (21.4%)</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>高校生</td> <td>66 (15.3%)</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>158 (36.7%)</td> <td>158</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>431 (100.0%)</td> <td>431</td> </tr> </tbody> </table>			回収数	有効回答数	小学生		273 (63.3%)	273	中学生以上	中学生	92 (21.4%)	92	高校生	66 (15.3%)	66	合計	158 (36.7%)	158	合計	431 (100.0%)	431	第2章
		回収数	有効回答数																				
小学生		273 (63.3%)	273																				
中学生以上	中学生	92 (21.4%)	92																				
	高校生	66 (15.3%)	66																				
	合計	158 (36.7%)	158																				
合計	431 (100.0%)	431																					
大人（懇談会・出向き調査）の調査結果	<p>1) 調査対象 懇談会および出向き調査に参加した大人 ただし、7/14に行われた私立幼稚園PTAへの出向き調査については、別章にて集計・分析を行う</p> <p>2) 調査方法 直接配布・直接回収</p> <p>3) 調査期間 平成17年7月～8月まで</p> <p>4) 回収状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回収数</th> <th>有効回答数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>748 (100.0%)</td> <td>748</td> </tr> </tbody> </table>	回収数	有効回答数	748 (100.0%)	748	第3章																	
回収数	有効回答数																						
748 (100.0%)	748																						

	調査概要																												
大人（私立幼稚園PTA）の調査結果	<p>1) 調査対象 7月14日につどーむで開催された私立幼稚園PTA協議会催事に参加した大人</p> <p>2) 調査方法 直接配布・直接回収</p> <p>3) 調査期間 平成17年7月14日（木）</p> <p>4) 回収状況</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">回収数</th> <th>有効回答数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,075</td> <td>(100.0%)</td> <td>1,075</td> </tr> </tbody> </table>	回収数		有効回答数	1,075	(100.0%)	1,075	第4章																					
回収数		有効回答数																											
1,075	(100.0%)	1,075																											
子ども（児童会館・青少年センター・子ども会リーダー研修）の調査結果	<p>1) 調査対象 札幌市内の児童会館（ミニ児童会館含む）および青少年センターを利用する小学生と中学生・高校生並びに子ども会リーダー研修に参加した小学生と中学生・高校生</p> <p>2) 調査方法 留置調査法</p> <p>3) 調査期間 平成17年8月～9月まで</p> <p>4) 回収状況</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>調査地点</th> <th>回収数</th> <th>有効回答数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">小学生</td> <td>児童会館</td> <td>2,999 (91.2%)</td> <td>2,999</td> </tr> <tr> <td>子ども会リーダー研修</td> <td>288 (8.8%)</td> <td>288</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>3,287 (100.0%)</td> <td>3,287</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">中学生以上</td> <td>児童会館</td> <td>766 (80.5%)</td> <td>763</td> </tr> <tr> <td>子ども会リーダー研修</td> <td>140 (14.7%)</td> <td>140</td> </tr> <tr> <td>青少年センター</td> <td>45 (4.7%)</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>951 (100.0%)</td> <td>945</td> </tr> </tbody> </table>		調査地点	回収数	有効回答数	小学生	児童会館	2,999 (91.2%)	2,999	子ども会リーダー研修	288 (8.8%)	288	合 計	3,287 (100.0%)	3,287	中学生以上	児童会館	766 (80.5%)	763	子ども会リーダー研修	140 (14.7%)	140	青少年センター	45 (4.7%)	42	合 計	951 (100.0%)	945	第5章
	調査地点	回収数	有効回答数																										
小学生	児童会館	2,999 (91.2%)	2,999																										
	子ども会リーダー研修	288 (8.8%)	288																										
	合 計	3,287 (100.0%)	3,287																										
中学生以上	児童会館	766 (80.5%)	763																										
	子ども会リーダー研修	140 (14.7%)	140																										
	青少年センター	45 (4.7%)	42																										
	合 計	951 (100.0%)	945																										

3. 集計・分析上の注意事項

- (1) 図表における「N」は有効回答数を表している。
- (2) 図表における構成比(%)は、小数点第2位以下を四捨五入し端数処理をしているため、構成比の合計は必ずしも100%にならない場合がある。

第2章 子ども（懇談会・出向き調査）の調査結果

1. 回答属性

(1) 調査地点と回答数

アンケートの調査地点と回答数は以下のとおりであり、小学生は273件、中学生は92件、高校生は66件となっている。

表2-1 調査地点と回答数（小学生）

調査地点	回答数
懇談会(7/24 向陵中学校)	35 (12.8%)
懇談会(7/25 ひばりが丘小学校)	90 (33.0%)
Y M C A(8/4 中島公園・Y M C A)	9 (3.3%)
ユースホステル行事(8/6 中沼青少年キャンプ場)	14 (5.1%)
七夕の集い(8/7 東川下小学校体育館)	69 (25.3%)
養護施設入所(8/21 興正学園体育館)	15 (5.5%)
公文学習塾(8/22 公文学習塾西26丁目教室)	41 (15.0%)
合 計	273 (100.0%)

表2-2 調査地点と回答数（中学生以上）

	調査地点	回答数
中 学 生	懇談会(7/24 向陵中学校)	19 (20.7%)
	硬式野球選手(7/31 クラブチーム専用のグラウンド)	45 (48.9%)
	Y M C A(8/4 中島公園・Y M C A)	7 (7.6%)
	ユースホステル行事(8/6 中沼青少年キャンプ場)	3 (3.3%)
	七夕の集い(8/7 東川下小学校体育館)	3 (3.3%)
	養護施設入所(8/21 興正学園体育館)	15 (16.3%)
	計	92 (100.0%)
高 校 生	懇談会(7/24 向陵中学校)	48 (72.7%)
	ユースホステル行事(8/6 中沼青少年キャンプ場)	1 (1.5%)
	七夕の集い(8/7 東川下小学校体育館)	1 (1.5%)
	青少年女性活動協会行事(8/21 ちえりあ)	1 (1.5%)
	養護施設入所(8/21 興正学園体育館)	15 (22.7%)
計	66 (100.0%)	
合 計	158	

(2) 年齢

アンケート回答者の年齢構成は、図2-1、図2-2のようになっている。

図2-1 年齢(小学生)(N=273)

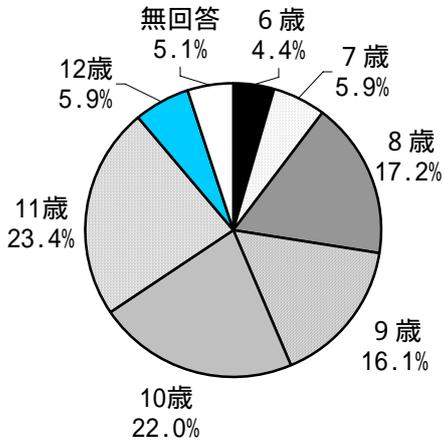
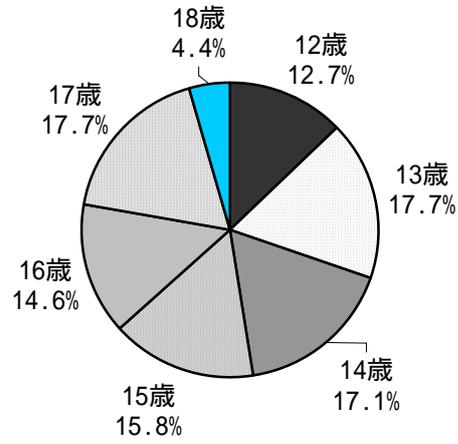
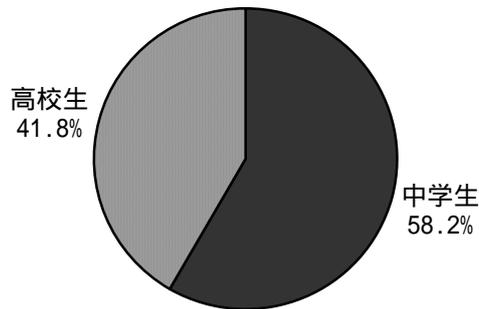


図2-2 年齢(中学生以上)(N=158)



また、中学生以上の学校をみると、「中学生」が58.2%、「高校生」が41.8%となっている。

図2-3 学校(中学生以上)(N=158)



(3) 性別

性別については、小学生では、「男性」が45.1%、「女性」が51.3%となっており、中学生以上では、「男性」が62.7%、「女性」が36.1%となっている。

図2-4 性別(小学生)(N=273)

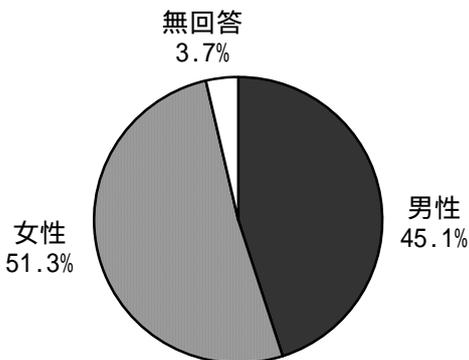
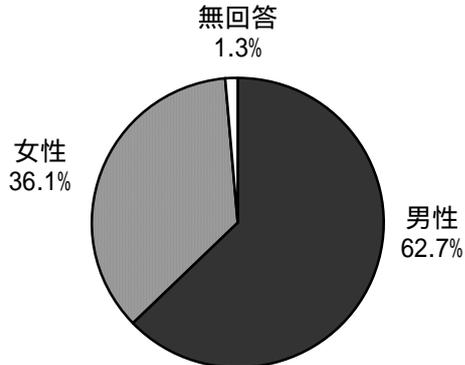


図2-5 性別(中学生以上)(N=158)



2. 自分のことが好きか

自分のことを好きかとたずねたところ、小学生、中学生以上ともに「どちらともいえない」が高く、それぞれ60.1%、73.4%となっている。また、小学生では、「好き」が28.9%と「嫌い」の5.5%を大きく上回っているのに対して、中学生以上では、「好き」が13.9%、「嫌い」が12.0%と同程度となっている。

図2-6 自分のことが好きか
(小学生)(N=273)

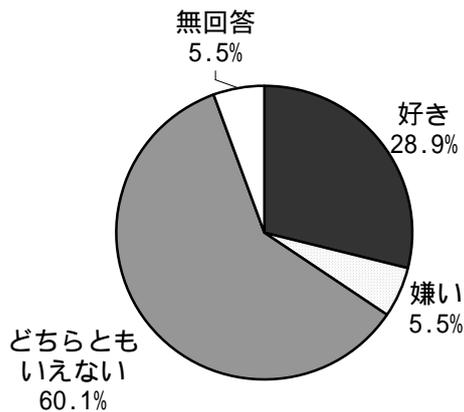
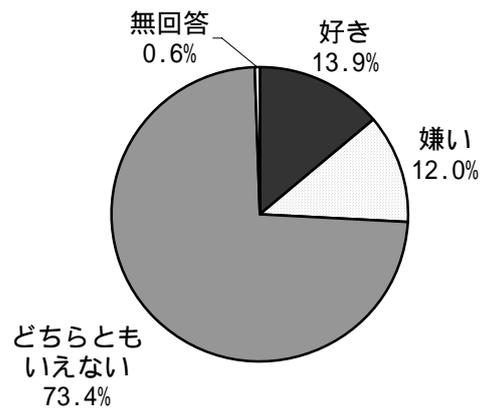


図2-7 自分のことが好きか
(中学生以上)(N=158)



3. 落ち着く場所、好きな所

落ち着く場所、好きな所をたずねたところ、小学生、中学生以上ともに、「家の中」が約90%と高く、次いで「自然の中」、「近所」となっている。一方、小学生では「学校」が64.5%、「教室」が38.1%のところ、中学生以上ではそれぞれ44.9%、19.0%と低くなっている。

図2-8 落ち着く場所・好きな所
(小学生)(N=273、複数回答)

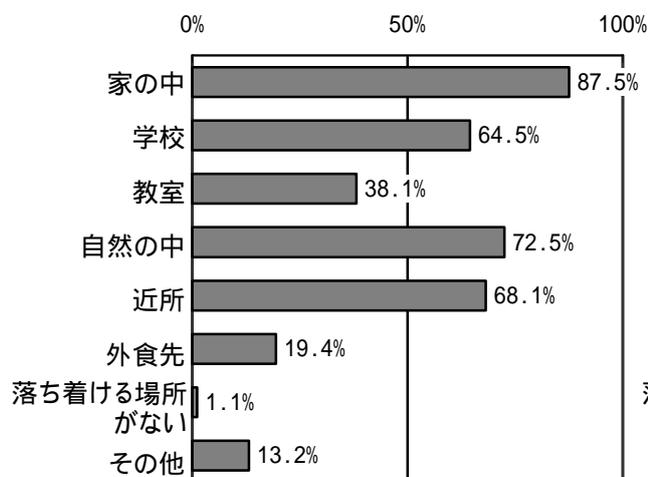
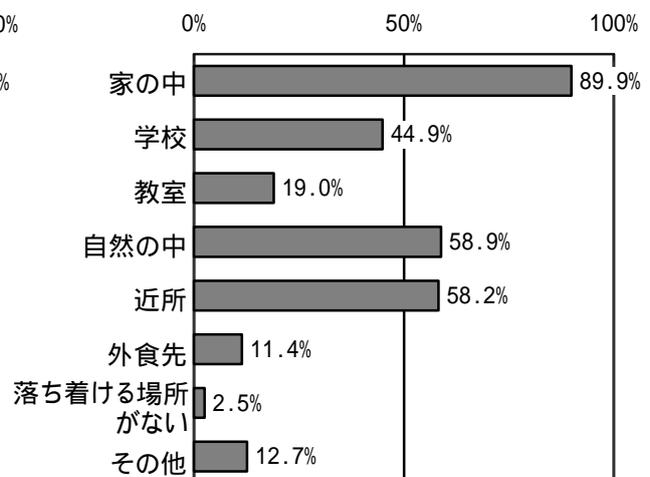


図2-9 落ち着く場所・好きな所
(中学生以上)(N=158、複数回答)



また、落ち着く場所・好きなところを詳細にみると、小学生では、「自分の部屋」が52.4%と最も高く、次いで「学校の教室」が49.1%、「自分の家の居間」が44.7%、「公園」が39.2%となっている。一方、中学生以上では、「自分の部屋」が78.5%と最も高く、小学生より26.1ポイント上回っている。

図2 - 10 落ち着く場所・好きな所（詳細）
（小学生）(N=273、複数回答)

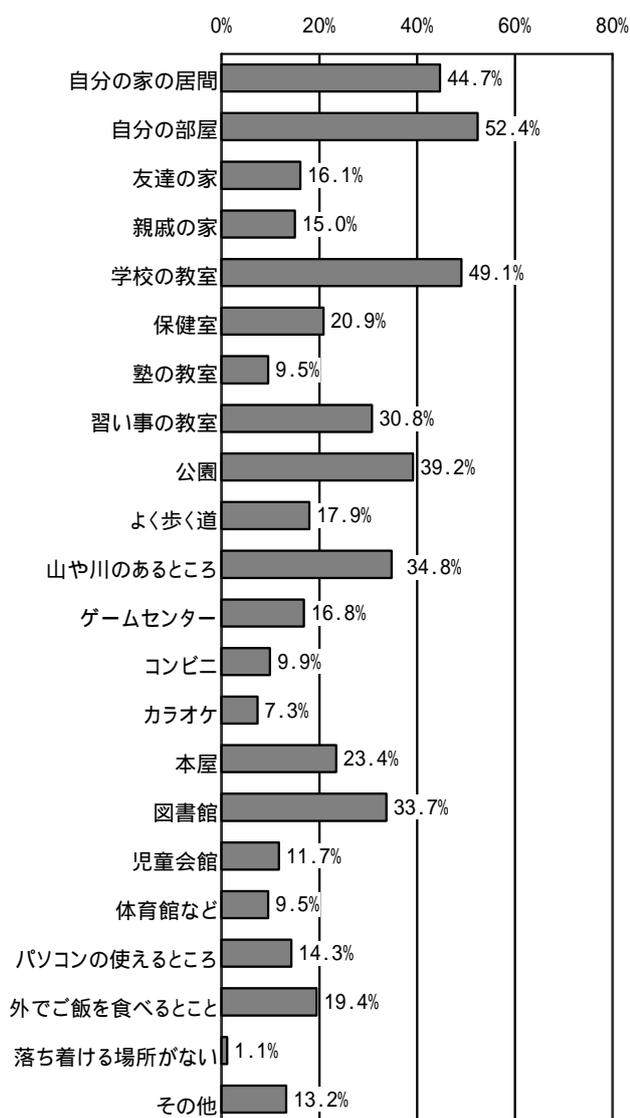
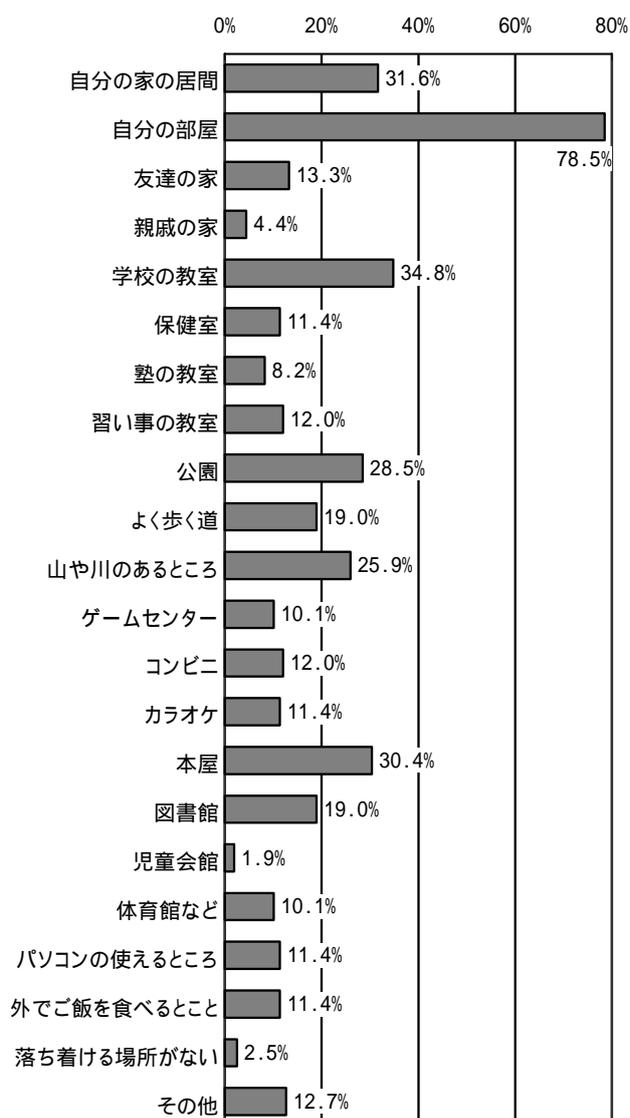


図2 - 11 落ち着く場所・好きな所（詳細）
（中学生以上）(N=158、複数回答)



4. 楽しく、ほっとする時

楽しく、ほっとする時をたずねたところ、小学生、中学生ともに、「自宅にいるとき」が80.0%以上と最も高く、次いで「友達と過ごすとき」、「学校にいるとき」となっている。

また、中学生以上では、「寝ているとき」が45.6%と小学生の28.9%より16.7ポイント高くなっている。

図2 - 12 楽しく、ほっとする時
(小学生)(N=273、複数回答)

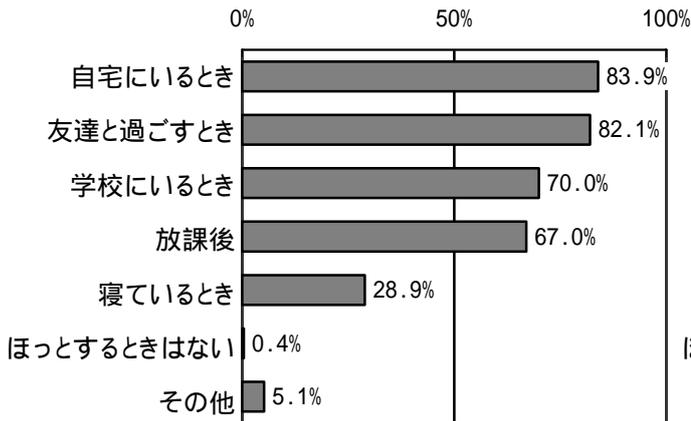
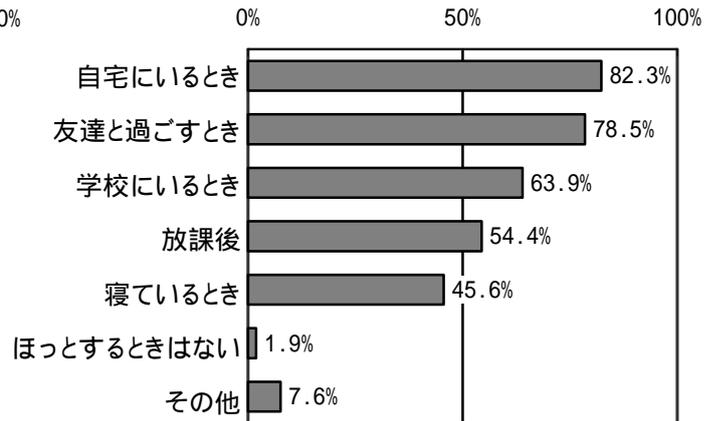


図2 - 13 楽しく、ほっとする時
(中学生以上)(N=158、複数回答)



また、楽しく、ほっとする時を詳細にみると、小学生では、学校にいるときの「休み時間のとき」が57.1%と最も高く、次いで、放課後の「遊んでいるとき」が56.8%、友達と過ごすときの「外で遊んでいるとき」が50.9%となっている。一方、中学生以上では、友達と過ごすときの「おしゃべりをしているとき」が60.1%と最も高く、次いで学校にいるときの「休み時間のとき」が48.7%、放課後の「遊んでいるとき」が47.5%、となっている。

図2 - 14 楽しく、ほっとする時（詳細）
（小学生）(N=273、複数回答)

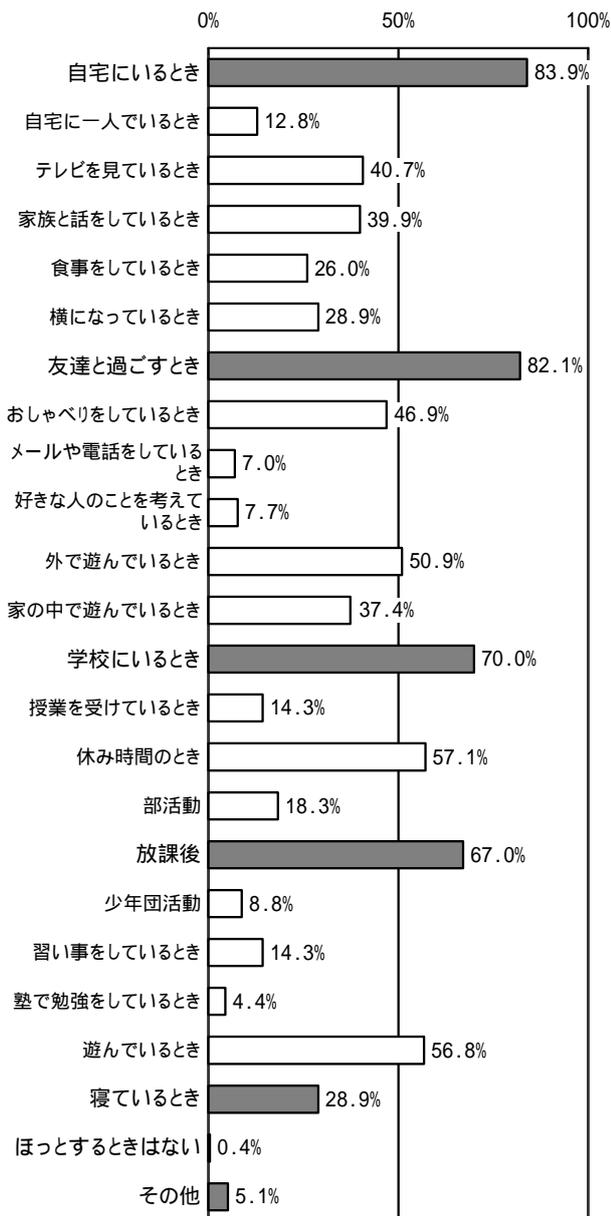
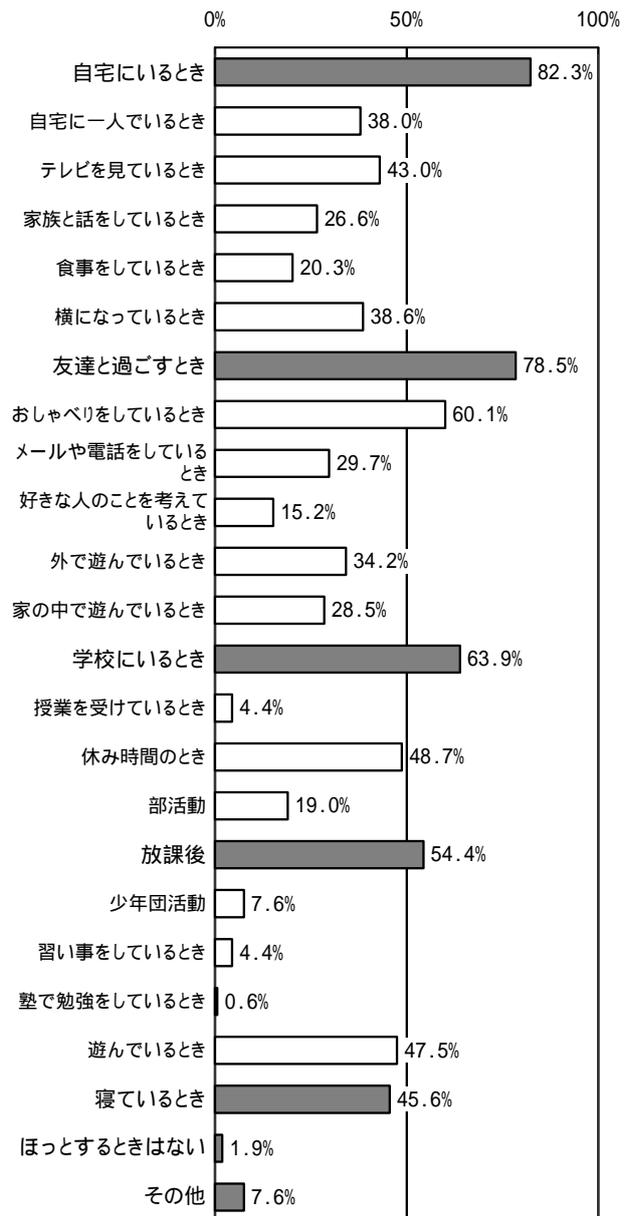


図2 - 15 楽しく、ほっとする時（詳細）
（中学生以上）(N=158、複数回答)



5. 本当は「やりたいこと」と思っているのに、できないこと

(1) 「やりたい」と思っているのに、できないことの有無

本当は「やりたい」と思っているのに、できないことをたずねたところ、小学生、中学生以上ともに「ある」が「ない」を上回っており、小学生では、「ない」より13.9ポイント、中学生以上では15.8ポイント高くなっている。

図2-16 「やりたい」と思っているのに
できないことの有無

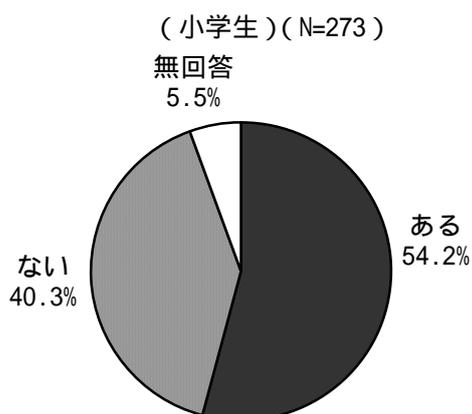
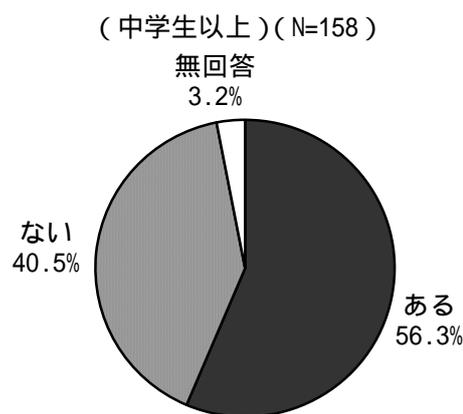


図2-17 「やりたい」と思っているのに
できないことの有無



(2) 「やりたい」と思っているのに、できない理由

「やりたい」と思っているのに、できないことがあると答えた小学生149人と、中学生以上89人に、その理由をたずねたところ、小学生では、「親にダメといわれているから」が41.2%と最も高く、次いで「時間がないから」が35.1%となっており、一方、中学生以上では、「時間がないから」が62.9%と最も高く、次いで「お金がないから」が56.2%となっている。

図2-18 できない理由
(小学生)(N=148、複数回答)

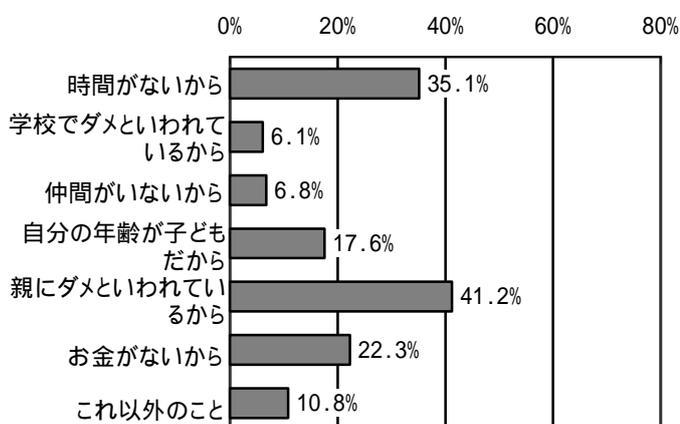
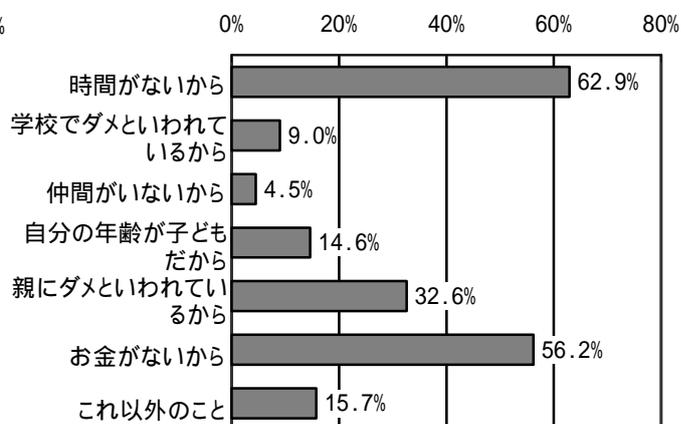


図2-19 できない理由
(中学生以上)(N=89、複数回答)



6 . 大切だと思うこと

大切だと思うことをたずねたところ、小学生では、「勉強すること」、「友達がいること」がともに50%以上と高く、次いで「遊ぶこと」、「夢があること」が45%以上となっている。一方、中学生以上では、「友達がいること」が72.2%と最も高く、次いで「夢があること」が63.3%となっている。また、小学生では「大人の言うことを聞くこと」が28.6%と高くなっているのに対し、中学生以上では6.3%と低くなっている。

図 2 - 20 大切だと思うこと
(小学生)(N=273、複数回答)

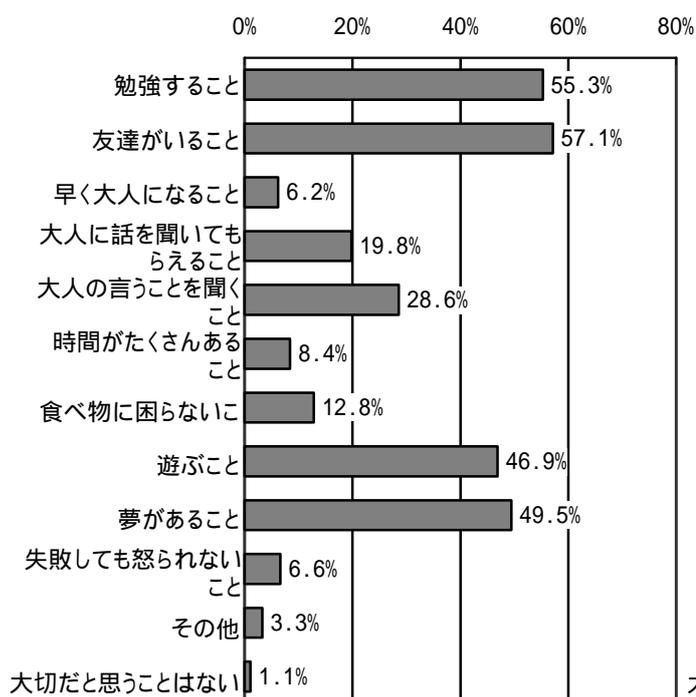
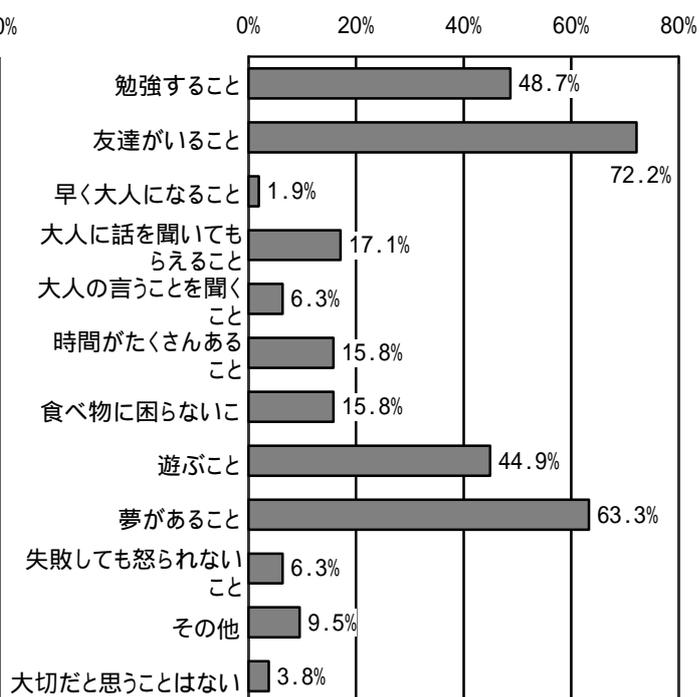


図 2 - 21 大切だと思うこと
(中学生以上)(N=158、複数回答)



7. 大人にしてもらいたいこと

大人にしてもらいたいことをたずねたところ、小学生、中学生以上ともに、「自分のことは自分で決めさせてほしい」が最も高く、それぞれ35.5%、45.6%となっている。次いで、小学生では、「友達や兄弟と比べない」が32.2%、「自由に過ごす時間を確保する」が27.5%となっており、中学生以上では、「決まりや約束を押し付けない」が34.8%、「自由に過ごす時間を確保する」が32.9%となっている。

なお、「してもらいたいことは特にない」は、小学生では12.5%、中学生以上では9.5%となっている。

図2-22 大人にしてもらいたいこと
(小学生)(N=273、複数回答)

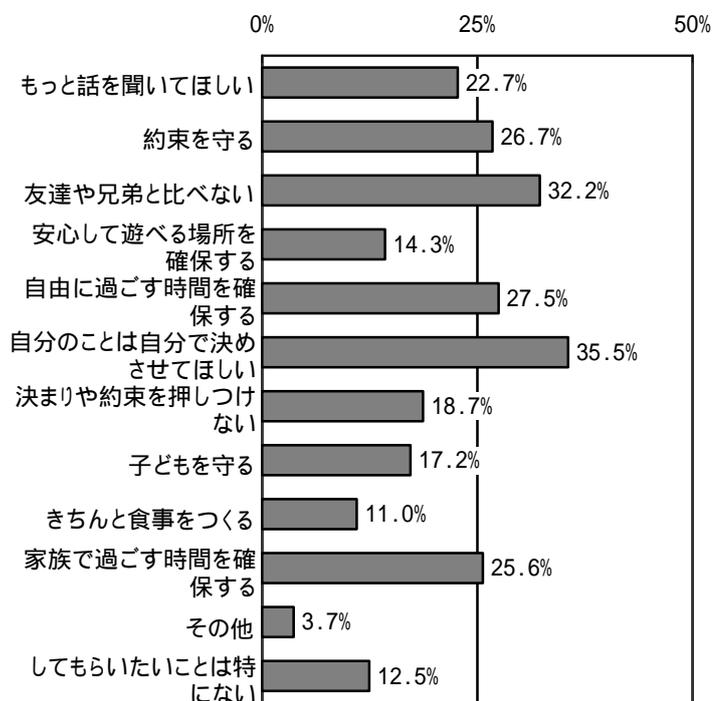
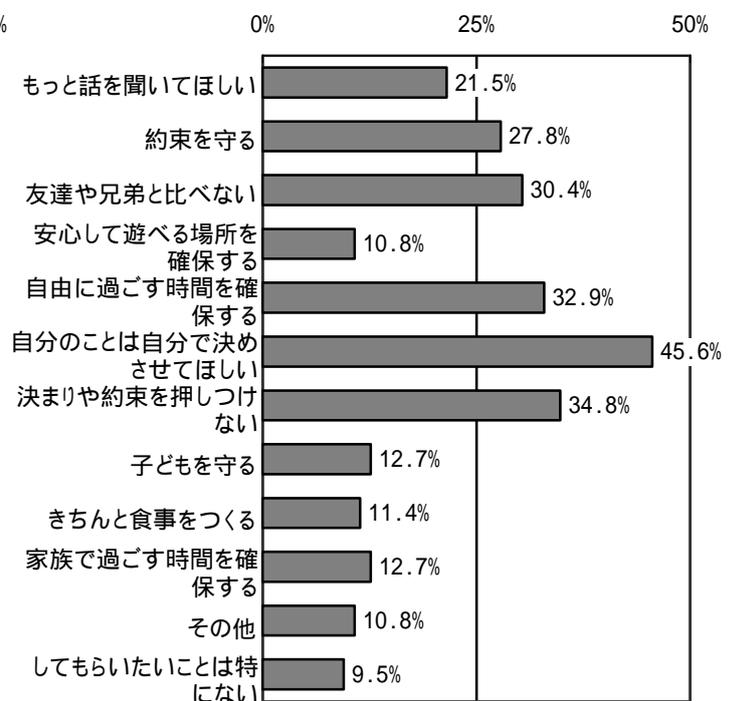


図2-23 大人にしてもらいたいこと
(中学生以上)(N=158、複数回答)



8. 今、悩んでいること

今、悩んでいることをたずねたところ、小学生では、「将来のこと」が34.4%と最も高く、次いで「普段の勉強」が29.3%となっている。一方、中学生以上では、「受験や進路」が49.4%と最も高く、次いで「将来のこと」が44.3%、「普段の勉強」が31.0%となっている。

なお、小学生では、「悩んでいることは特にない」が16.1%のところ、中学生以上では10.8%となっている。

図2-24 今、悩んでいること
(小学生)(N=273、複数回答)

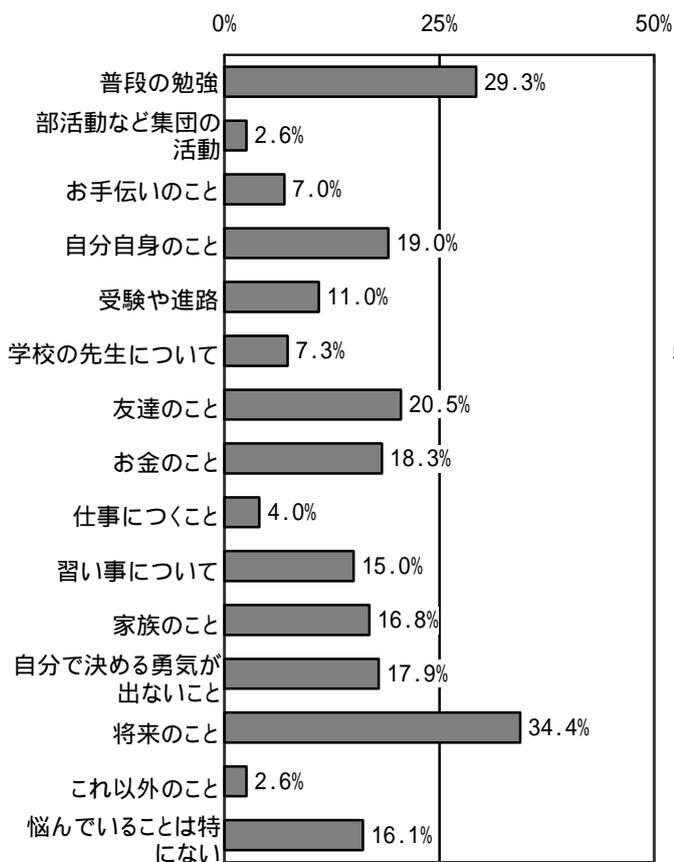
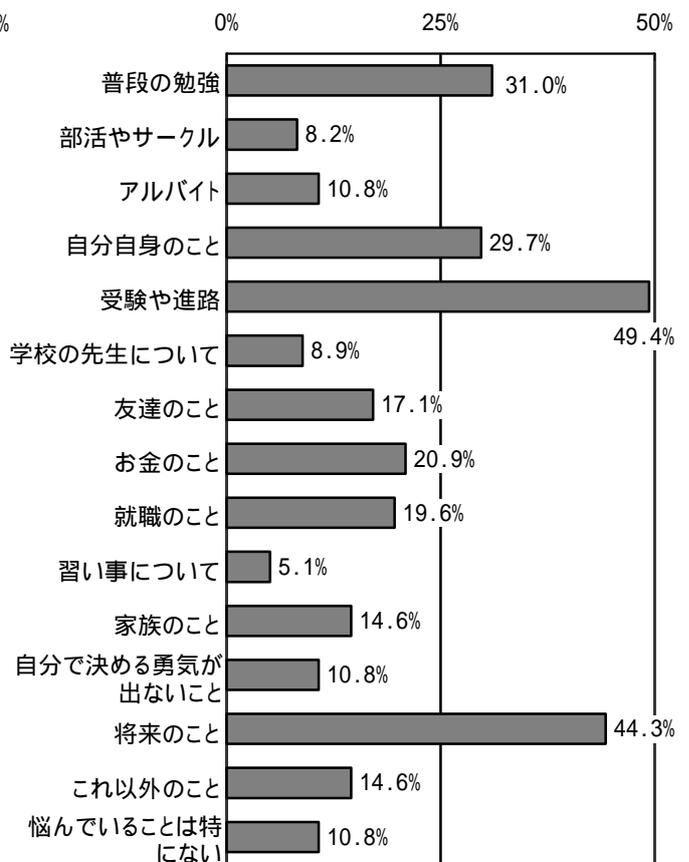


図2-25 今、悩んでいること
(中学生以上)(N=158、複数回答)



9. 困っているときに相談する人

困っているときに相談する人をたずねたところ、小学生では、「親」が65.6%と最も高く、次いで「学校の友達」が41.0%、「兄弟」が22.7%となっている。一方、中学生以上では、「学校の友達」、「学校以外の友達」がそれぞれ55.1%、25.3%と高く、「親」も41.8%と高くなっているものの、小学生に比べて23.8ポイント低くなっている。

図2-26 困っているときに相談する人
(小学生)(N=273、複数回答)

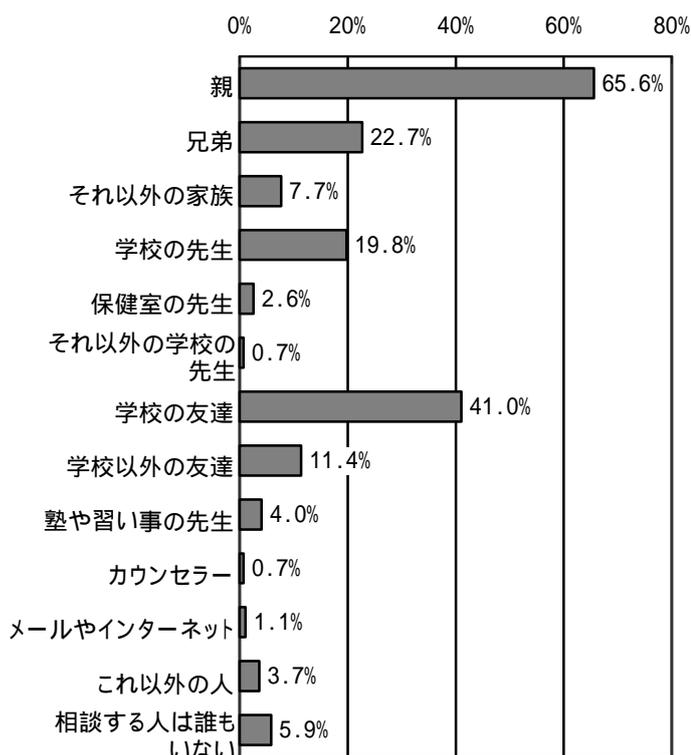
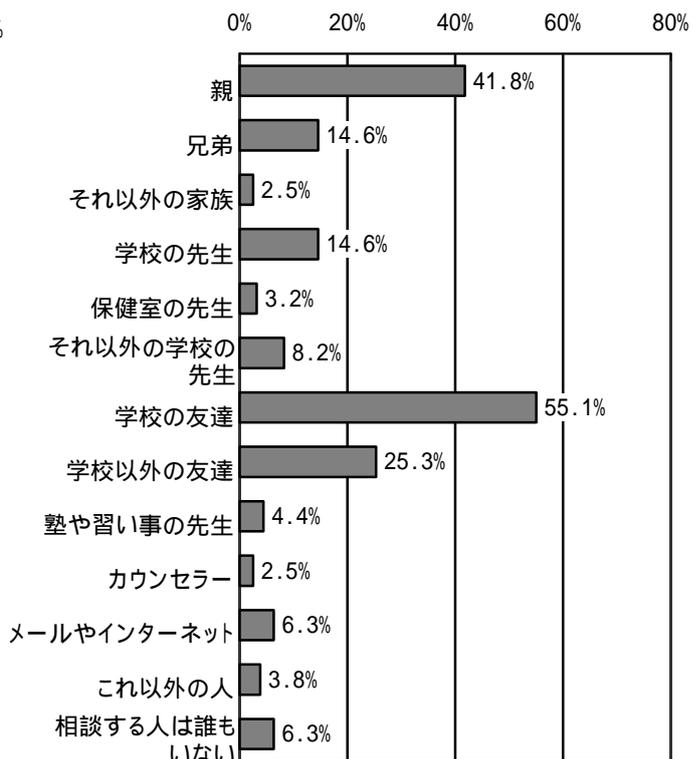


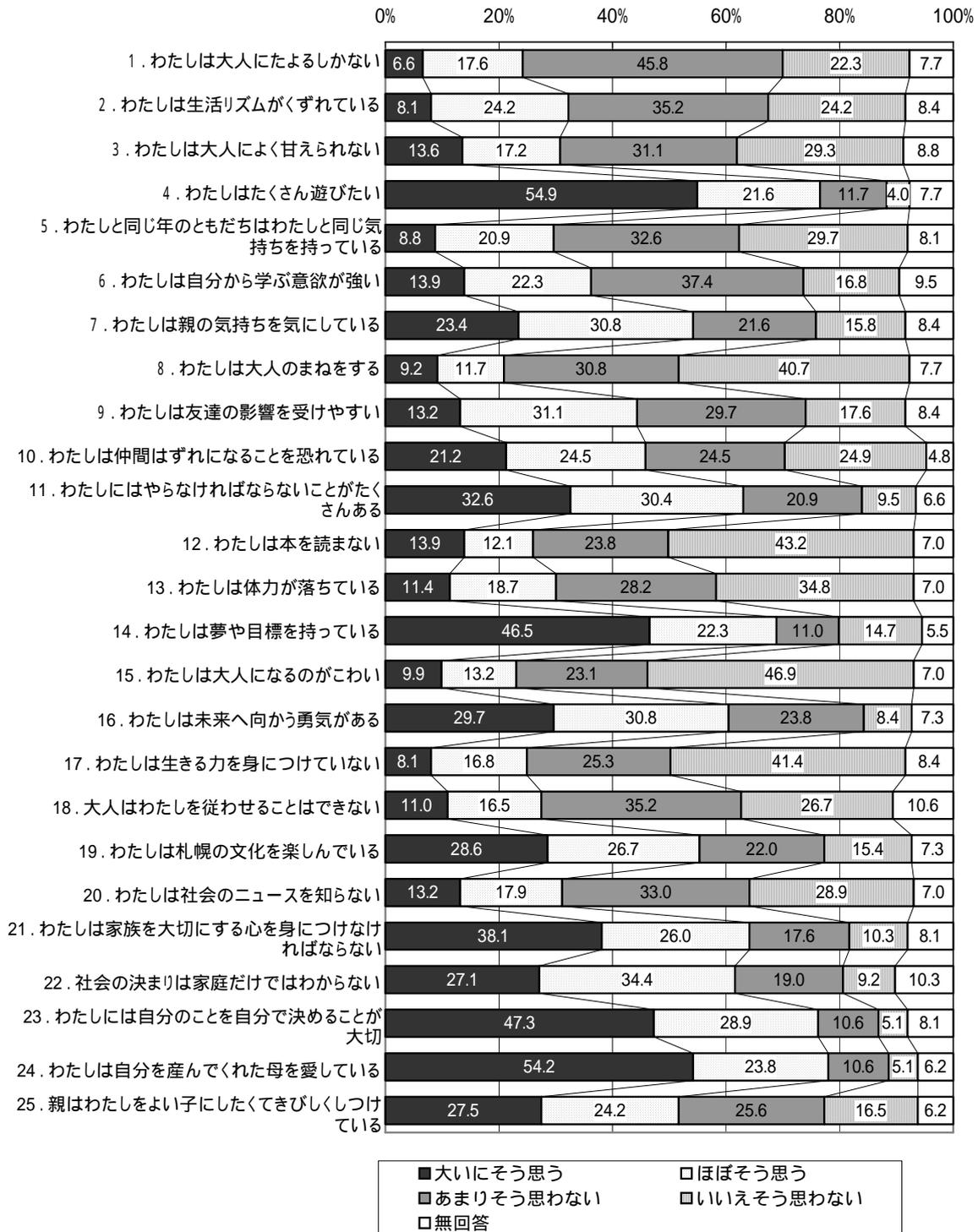
図2-27 困っているときに相談する人
(中学生以上)(N=158、複数回答)



10. 現在感じている子どもの姿

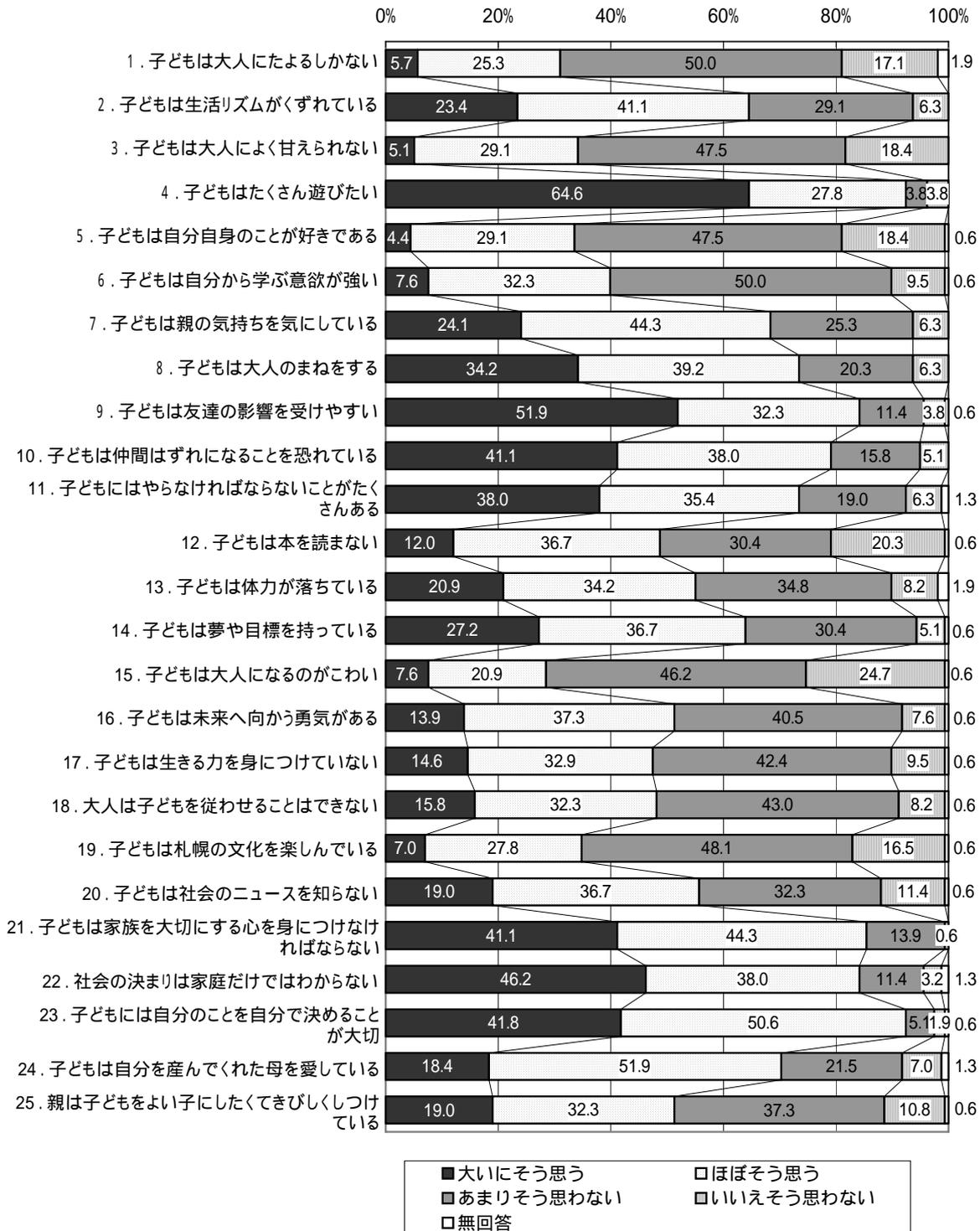
小学生に、現在感じている自分の姿をたずねたところ、図2-28のようになっており、「4.わたしはたくさん遊びたい」、「24.わたしは自分を産んでくれた母を愛している」、「23.わたしには自分のことを自分で決めることが大切」において、「大いにそう思う」の割合が高くなっている。

図2-28 自分の姿(小学生)(N=273)



中学生以上に、現在感じている子どもの姿をたずねたところ、「4.子どもはたくさん遊びたい」、「9.子どもは友達の影響を受けやすい」、「23.子どもには自分のことを自分で決めることが大切」、「22.社会の決まりは家庭だけではわからない」において、「大いにそう思う」の割合が高くなっている。

図2 - 29 子どもの姿 (中学生以上) (N=158)



11. 「子どもの権利条例」づくりの認知度

札幌市が「子どもの権利条例」づくりに取り組んでいることを知っているかをたずねたところ、小学生では、「知っている」が42.9%、「知らない」が46.9%となっている。一方、中学生以上では、「知っている」が28.5%、「知らない」が70.3%となっている。

図2 - 30 「子どもの権利条例」づくりの認知度
(小学生)(N=273)

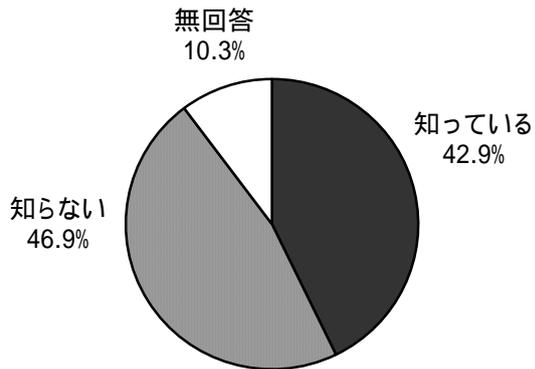
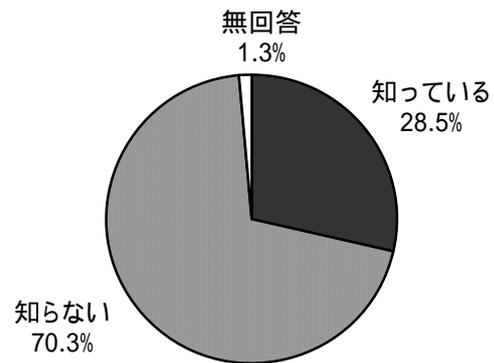


図2 - 31 「子どもの権利条例」づくりの認知度
(中学生以上)(N=158)



第3章 大人（懇談会・出向き調査）の調査結果

1. 回答属性

(1) 調査地点と回答数

アンケートの調査地点と回答数は以下のとおりであり、回答数は748件となっている。

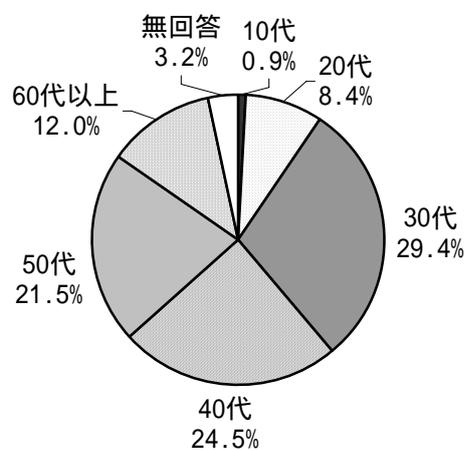
表3-1 調査地点と回答数

調査地点	回答数
少年6団体指導者(7/2 市民会館)	26 (3.5%)
青少年女性活動協会職員(7/2 市民会館)	29 (3.9%)
高校PTA(7/2 市民会館)	10 (1.3%)
主任児童委員・民生委員(7/2 市民会館)	71 (9.5%)
青少年育成委員(7/2 市民会館)	32 (4.3%)
市立幼稚園教諭(7/7 中央幼稚園)	61 (8.2%)
サポートセンター職員等(7/10 陵北中学校)	11 (1.5%)
保育所保育士・私立幼稚園教諭(7/10 陵北中学校)	97 (13.0%)
小中学校PTA(7/10 陵北中学校)	10 (1.3%)
公募大人(7/29 S T V北2条ビル会議室)	18 (2.4%)
公募小学校教師(8/2 S T V北2条ビル会議室)	23 (3.1%)
公募中・高校教師(8/2 S T V北2条ビル会議室)	7 (0.9%)
公募0～6歳の親(8/3 エルプラザ大研修室)	4 (0.5%)
公募7～12歳の親(8/3 エルプラザ大研修室)	4 (0.5%)
公募13～15歳の親(8/4 S T V北2条ビル会議室)	6 (0.8%)
公募16～18歳の親(8/4 S T V北2条ビル会議室)	6 (0.8%)
中学校硬式野球選手の親(7/31 クラブチーム専用グラウンド)	15 (2.0%)
YMCA参加者保護者(8/4 中島公園・YMCA)	4 (0.5%)
YMCA保護者発達課題(8/4 中島公園・YMCA)	12 (1.6%)
YMCA講師(8/4 中島公園・YMCA)	5 (0.7%)
ユースホステル行事主催者(8/6 中沼青少年キャンプ場)	3 (0.4%)
七夕の集い(8/7 東川下小学校体育館)	90 (12.0%)
子どもの権利条例制定市民会議委員(8/11 北海道大学)	17 (2.3%)
青少年女性活動協会行事参加者(8/21 ちえりあ)	119 (15.9%)
養護施設職員(8/21 興正学園体育館)	11 (1.5%)
養護学校に通う子の親(8/23 市立豊成養護学校)	8 (1.1%)
青少年科学館来館者(8/27 青少年科学館)	49 (6.6%)
計	748 (100.0%)

(2) 年齢

アンケート回答者の年齢構成は、図3-1のようになっている。

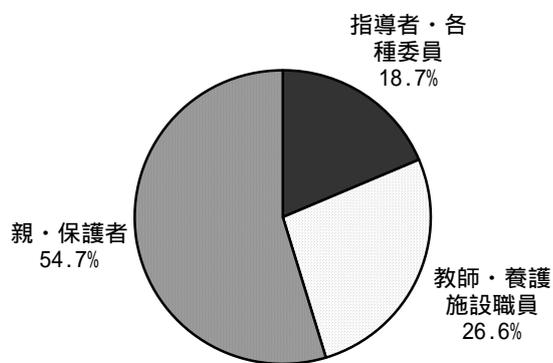
図3-1 年齢 (N=748)



(3) 職種等

職種等については、「指導者・各種委員」が18.7%、「教師・養護施設職員」が26.6%、「親・保護者」が54.7%となっている。

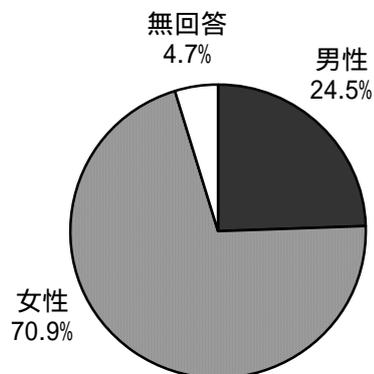
図3-2 職種等 (N=748)



(4) 性別

性別については、「男性」が24.5%、「女性」が70.9%となっている。

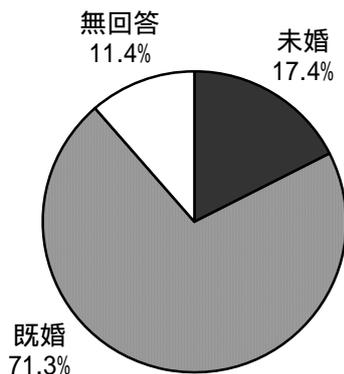
図3 - 3 性別 (N=748)



(5) 婚姻

婚姻状況については、「未婚」が17.4%、「既婚」が71.3%となっている。

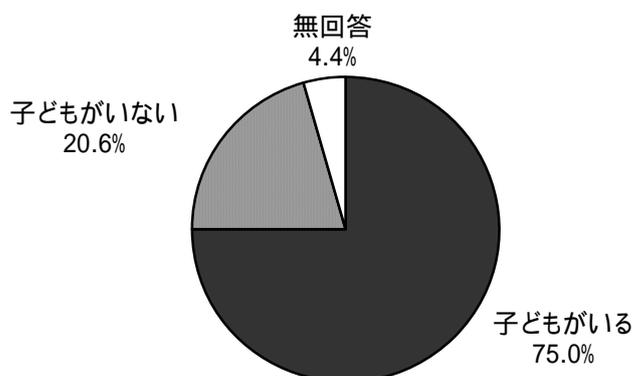
図3 - 4 婚姻 (N=748)



(6) 子どもの有無

子どもの有無については、「子どもがいる」が75.0%、「子どもがいない」が20.6%となっている。

図3 - 5 子どもの有無 (N=748)

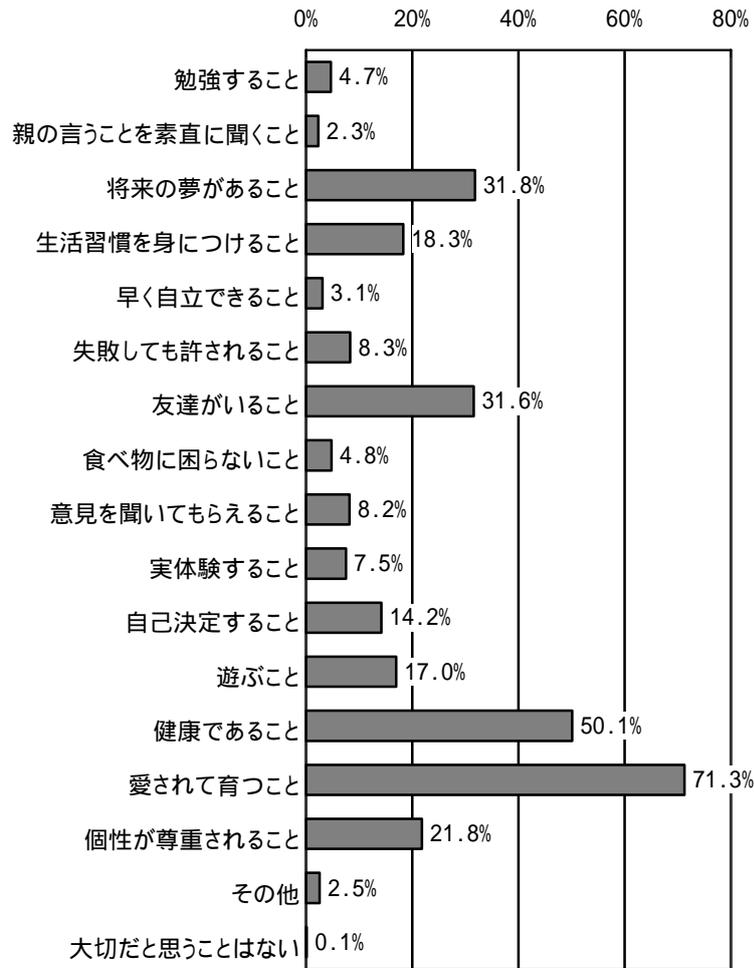


2. 子どもにとって一番大切だと思うこと

子どもにとって一番大切だと思うことをたずねたところ、「愛されて育つこと」が71.3%と最も高く、次いで「健康であること」が50.1%、「将来の夢があること」が31.8%、「友達がいること」が31.6%となっている。

図3 - 6 子どもにとって一番大切だと思うこと

(N=748、複数回答)

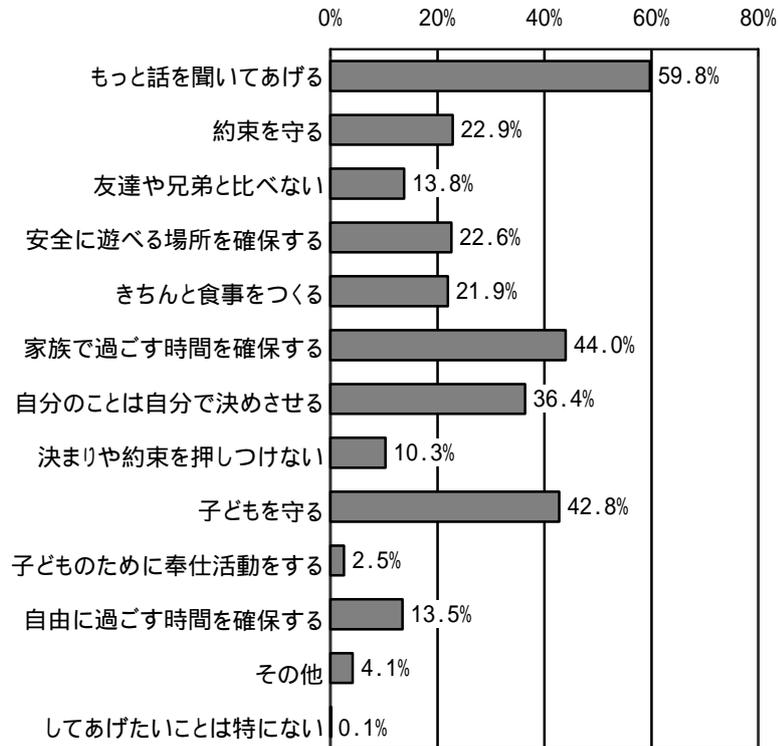


3. 子どもにしてあげたいこと

子どもにしてあげたいことをたずねたところ、「もっと話を聞いてあげる」が59.8%と最も高く、次いで「家族で過ごす時間を確保する」が44.0%、「子どもを守る」が42.8%となっている。

図3 - 7 子どもにしてあげたいこと

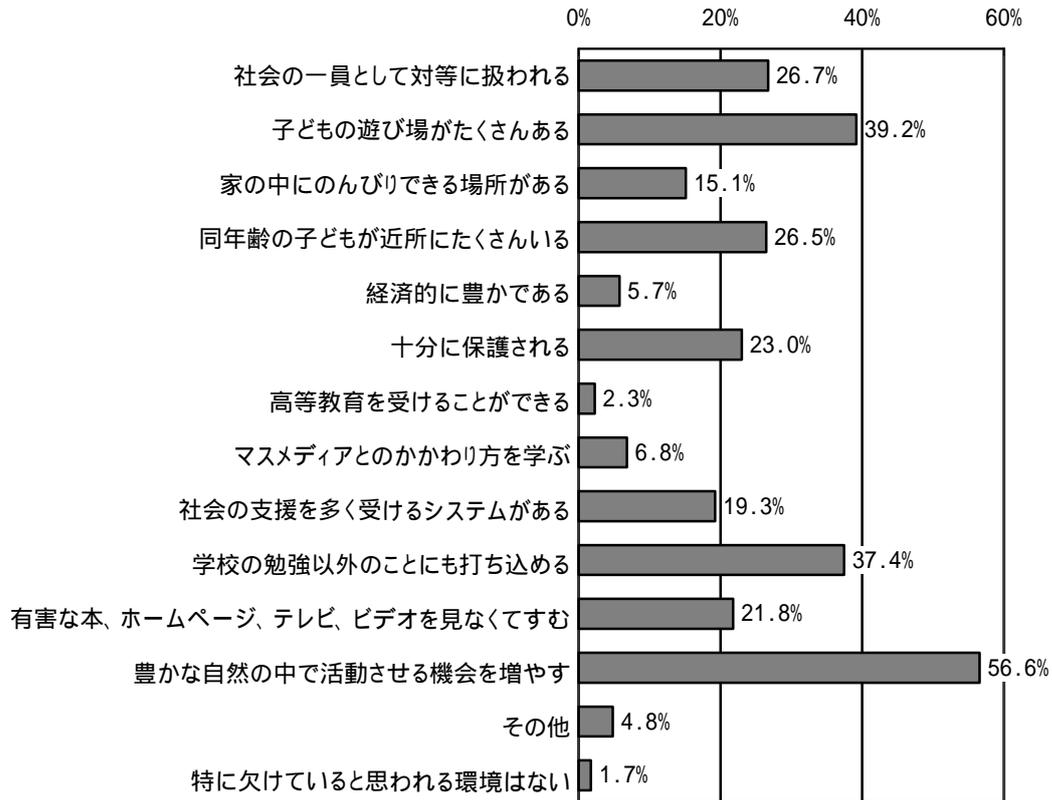
(N=748、複数回答)



4. 子どもたちに欠けていると思われる環境

子どもたちに欠けていると思われる環境についてたずねたところ、「豊かな自然の中で活動させる機会を増やす」が56.6%と最も高く、次いで「子どもの遊び場がたくさんある」が39.2%、「学校の勉強以外のことにも打ち込める」が37.4%となっている。

図3 - 8 子どもたちに欠けていると思われる環境
(N=748、複数回答)

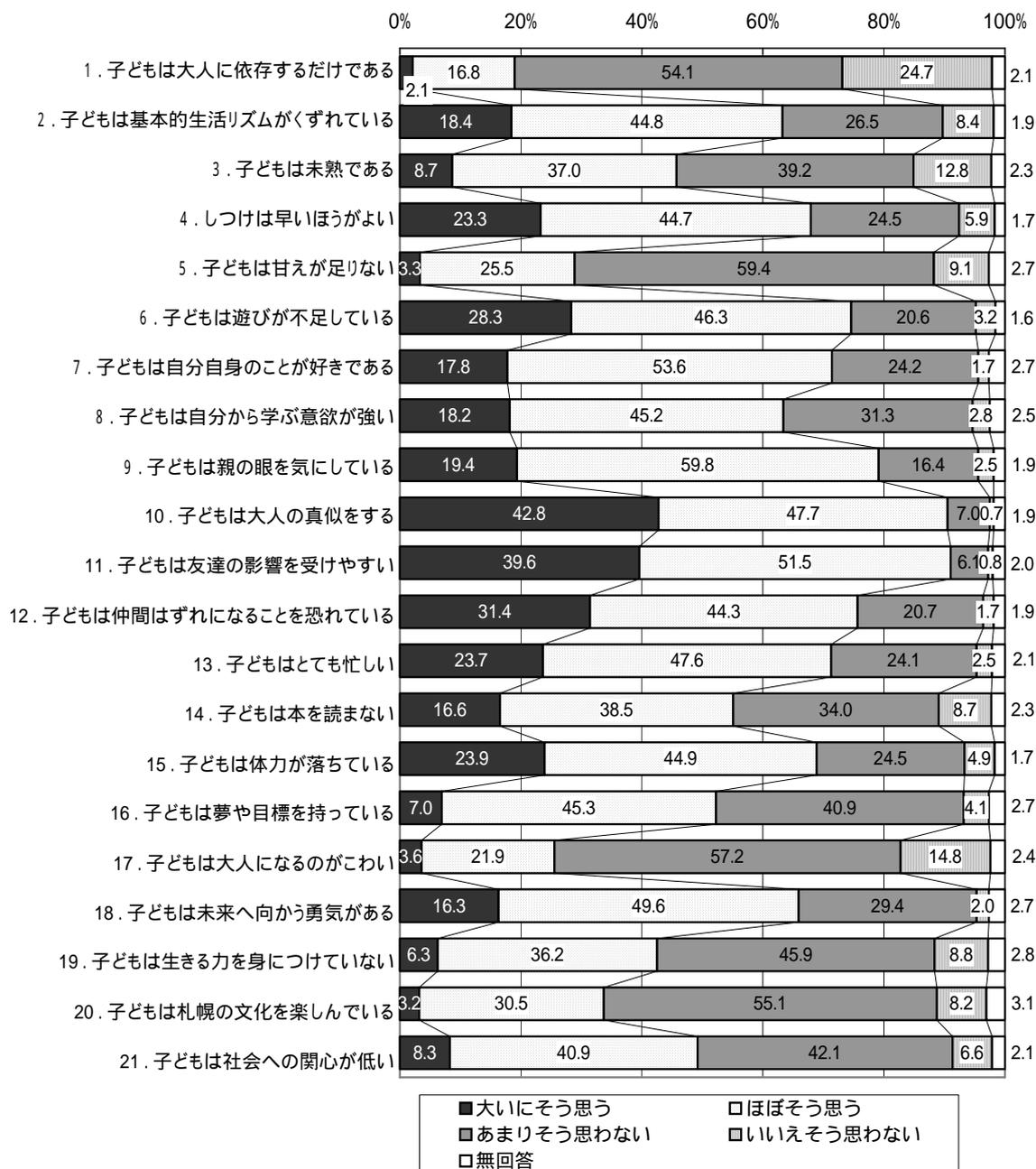


5. 現在感じている子どもの姿

(1) 現在感じている子どもの姿

現在感じている子どもの姿についてたずねたところ、「10.子どもは大人の真似をする」、「11.子どもは友達の影響を受けやすい」において、「大いにそう思う」と「ほぼそう思う」を合わせた割合がそれぞれ90.5%、91.1%と高くなっている。

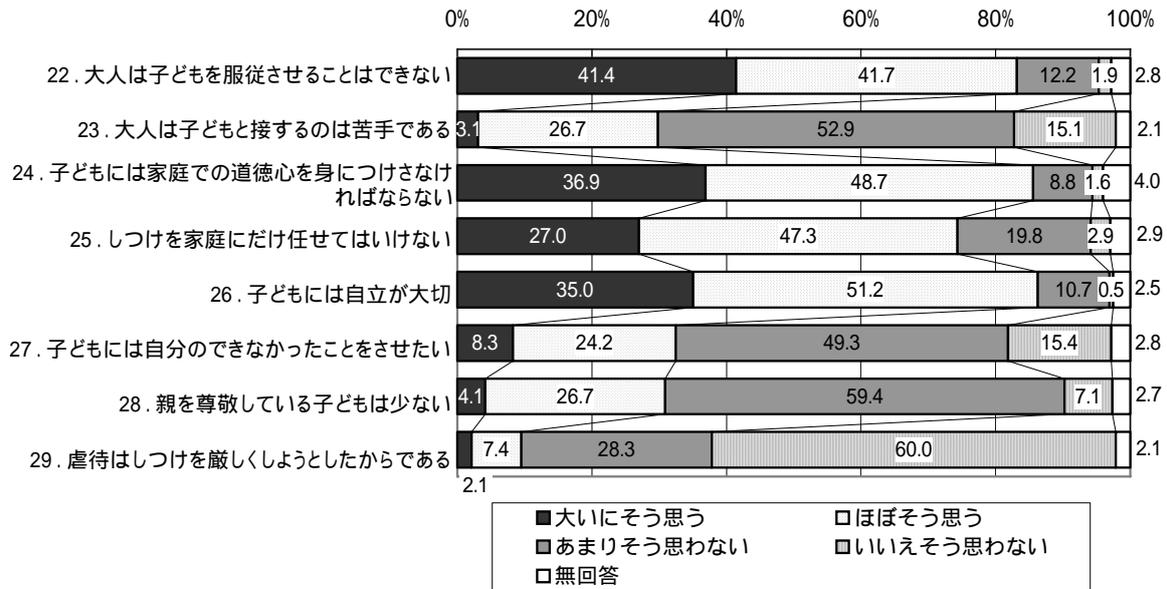
図3-9 現在感じている子どもの姿 (N=748)



(2) 子どもに関する意見について

子どもに関する意見についてどう思うかをたずねたところ、「22.大人は子どもを服従させることはできない」、「24.子どもには家庭での道徳心を身につけさせなければならない」、「26.子どもには自立が大切」において、「大いにそう思う」と「ほぼそう思う」を合わせた割合がそれぞれ83.1%、85.6%、86.2%と高くなっている。

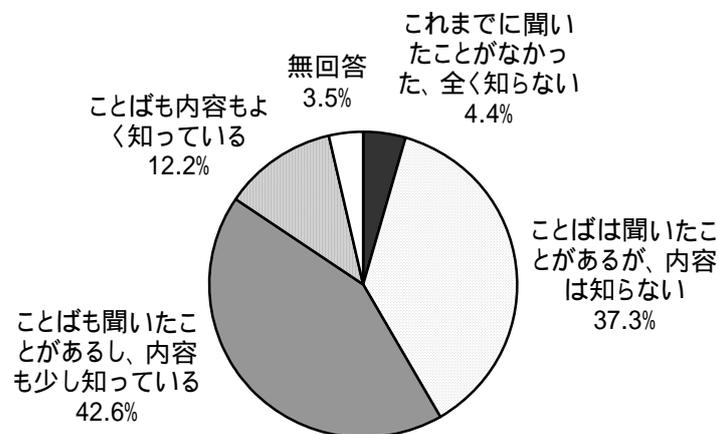
図3 - 10 子どもに関する意見について (N=748)



6. 「子どもの権利」の認知度

「子どもの権利」を知っているかをたずねたところ、「ことばも聞いたことがあるし、内容も少し知っている」が42.6%と最も高く、次いで「ことばは聞いたことがあるが、内容は知らない」が37.7%となっている。

図3 - 11 「子どもの権利」の認知度 (N=748)



第4章 大人（私立幼稚園PTA）の調査結果

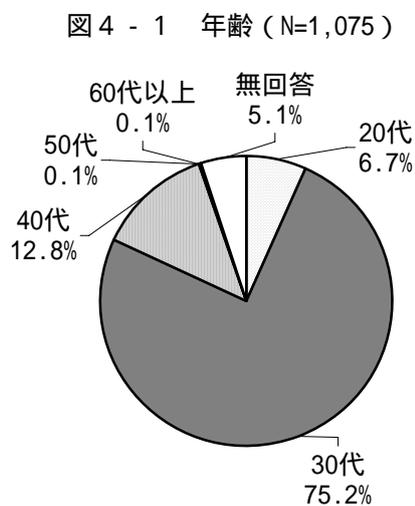
1. 回答属性

(1) 調査地点と回答数

7月14日につどーむで開催された私立幼稚園PTA協議会催事への参加者にアンケート調査を行い、回答数は1,075件となっている。

(2) 年齢

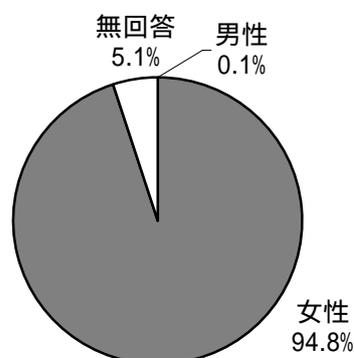
アンケート回答者の年齢構成は、図4-1のようになっている。



(3) 性別

性別については、「男性」が0.1%、「女性」が94.8%となっている。

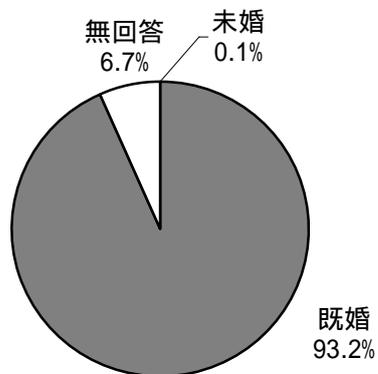
図4-2 性別 (N=1,075)



(4) 婚姻

婚姻状況については、「未婚」が0.1%、「既婚」が93.2%となっている。

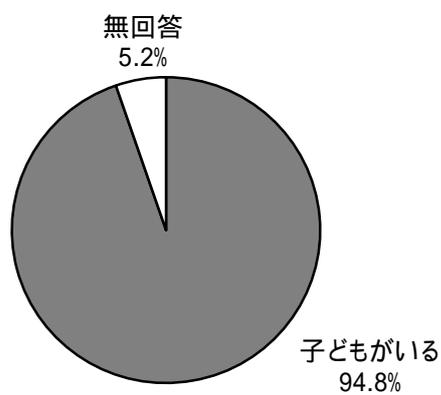
図4 - 3 婚姻 (N=1,075)



(5) 子どもの有無

子どもの有無については、「子どもがいる」が94.8%となっている。

図4 - 4 子どもの有無 (N=1,075)

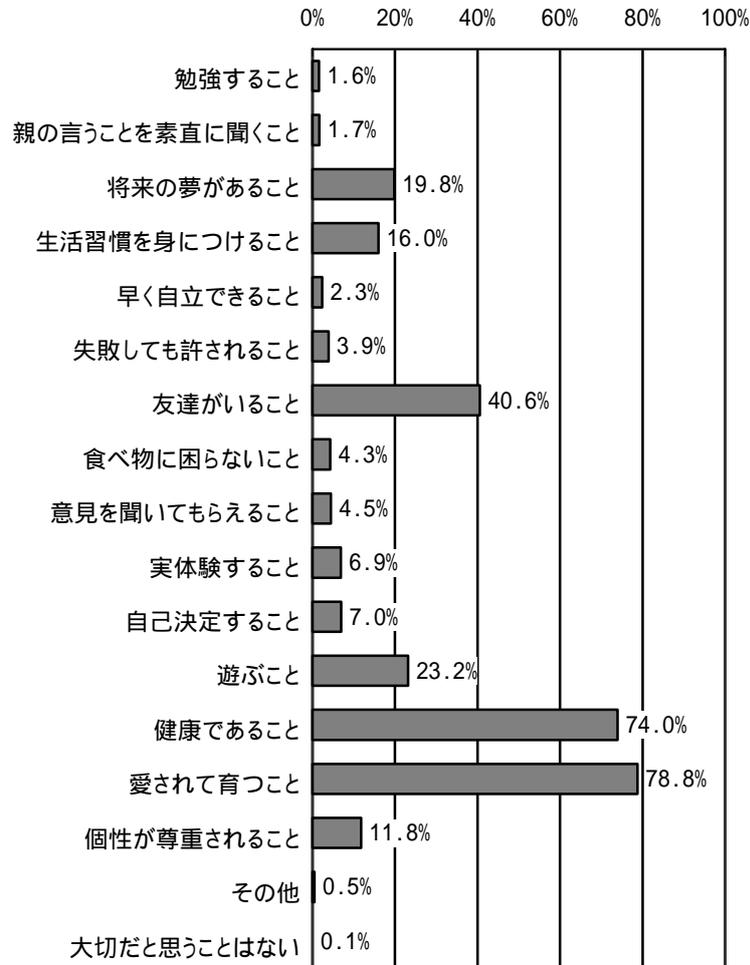


2. 子どもにとって一番大切だと思うこと

子どもにとって一番大切だと思うことをたずねたところ、「愛されて育つこと」が78.8%と最も高く、次いで「健康であること」が74.0%、「友達がいること」が40.6%となっている。

図4 - 5 子どもにとって一番大切だと思うこと

(N=1,075、複数回答)

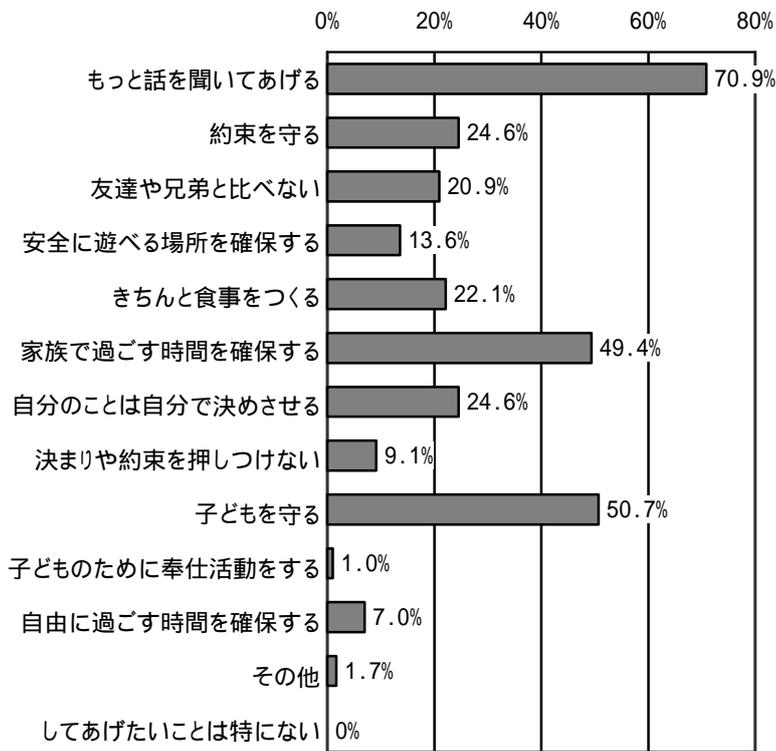


3. 子どもにしてあげたいこと

子どもにしてあげたいことをたずねたところ、「もっと話を聞いてあげる」が70.9%と最も高く、次いで「子どもを守る」が50.7%、「家族で過ごす時間を確保する」が49.4%となっている。

図4 - 6 子どもにしてあげたいこと

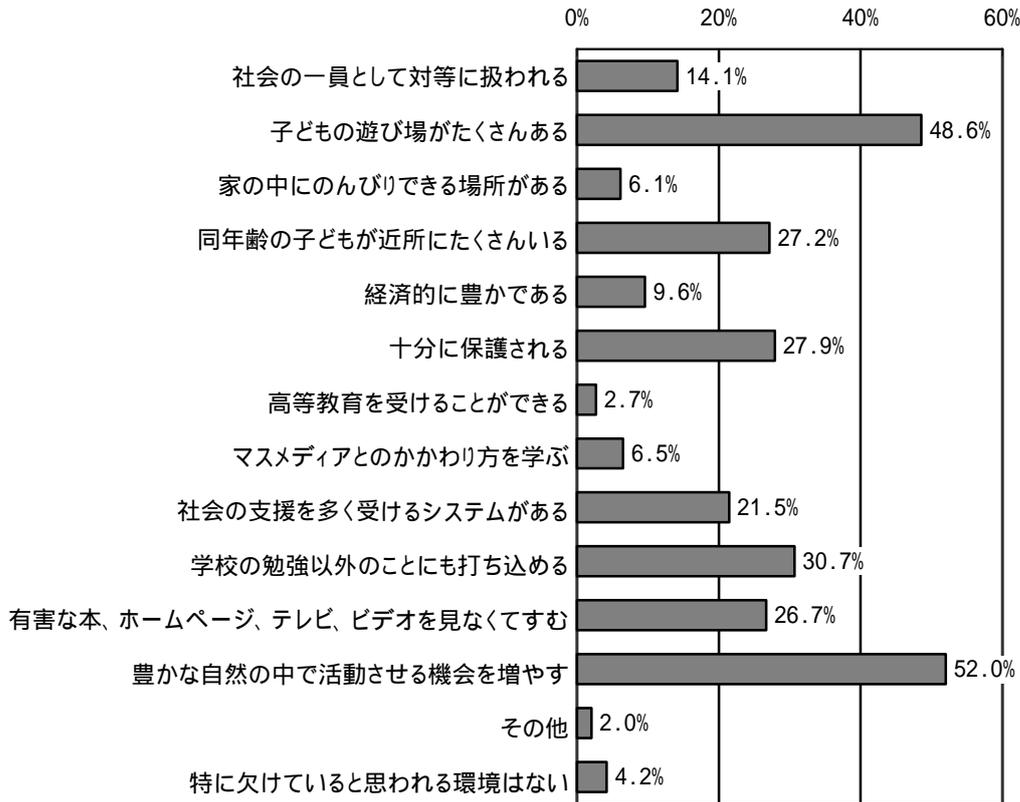
(N=1,075、複数回答)



4. 子どもたちに欠けていると思われる環境

子どもたちに欠けていると思われる環境についてたずねたところ、「豊かな自然の中で活動させる機会を増やす」が52.0%と最も高く、次いで「子どもの遊び場がたくさんある」が48.6%、「学校の勉強以外のことにも打ち込める」が30.7%となっている。

図4-7 子どもたちに欠けていると思われる環境
(N=1,075、複数回答)

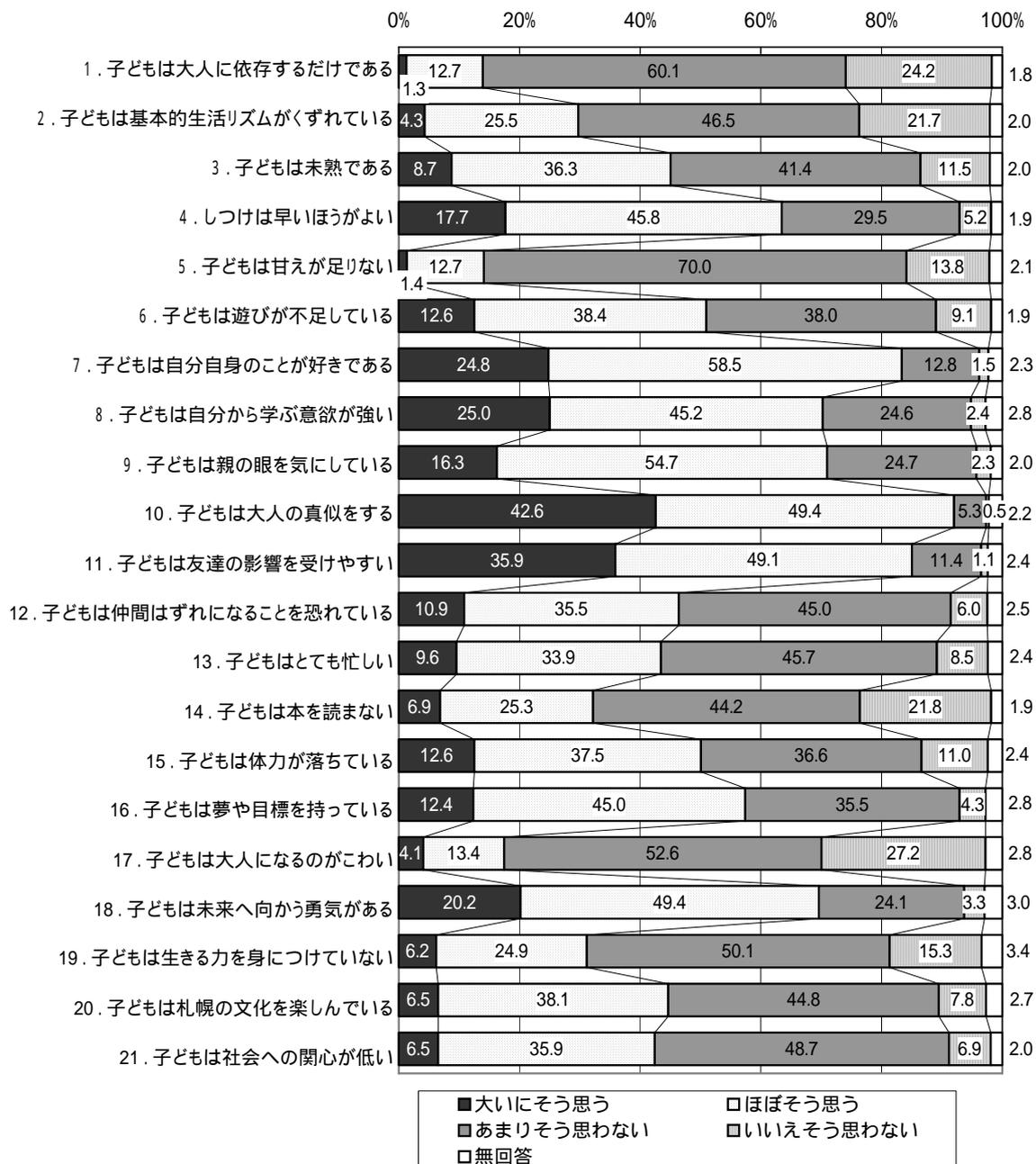


5. 現在感じている子どもの姿

(1) 現在感じている子どもの姿

現在感じている子どもの姿についてたずねたところ、「7.子どもは自分自身のことが好きである」、「10.子どもは大人の真似をする」、「11.子どもは友達の影響を受けやすい」において、「大いにそう思う」と「ほぼそう思う」を合わせた割合がそれぞれ83.3%、92.0%、85.0%と高くなっている。

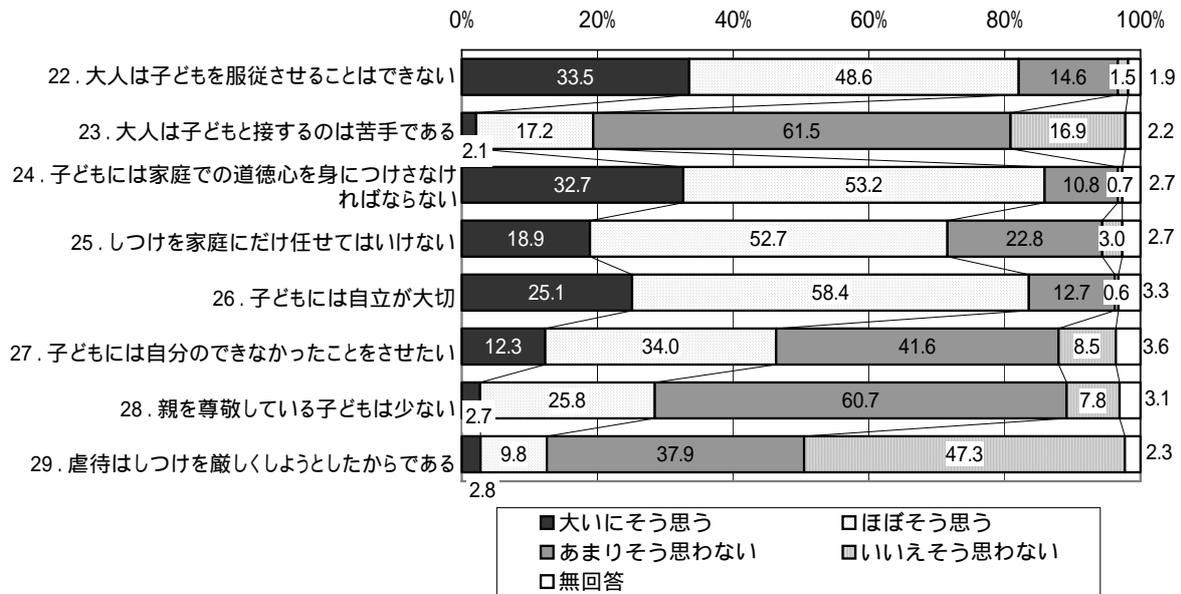
図4-8 現在感じている子どもの姿 (N=1,075)



(2) 子どもに関する意見について

子どもに関する意見についてどう思うかをたずねたところ、「22.大人は子どもを服従させることはできない」、「24.子どもには家庭での道徳心を身につけさせなければならない」、「26.子どもには自立が大切」において、「大いにそう思う」と「ほぼそう思う」を合わせた割合がそれぞれ82.1%、85.9%、83.5%と高くなっている。

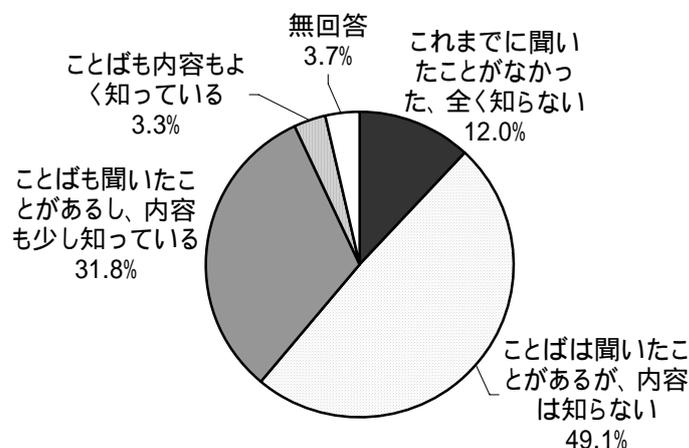
図4-9 子どもに関する意見について (N=1,075)



6. 「子どもの権利」の認知度

「子どもの権利」を知っているかをたずねたところ、「ことばは聞いたことがあるが、内容は知らない」が49.1%と最も高く、次いで「ことばも聞いたことがあるし、内容も少し知っている」が31.8%となっている。

図4-10 「子どもの権利」の認知度 (N=1,075)



第5章 子ども（児童会館・青少年センター・子ども会リーダー研修）の調査結果

児童会館にはミニ児童会館を含む

1. 回答属性

(1) 回答数

アンケートの回答数は以下のとおりであり、小学生は3,287件、中学生以上は945件となっている。

表5-1 回答数（小学生）

		回答数
児童会館の所在地	中央区	276 (9.2%)
	北 区	496 (16.5%)
	東 区	431 (14.4%)
	白石区	314 (10.5%)
	厚別区	134 (4.5%)
	豊平区	313 (10.4%)
	清田区	220 (7.3%)
	南 区	163 (5.4%)
	西 区	287 (9.6%)
	手稲区	365 (12.2%)
	計	2,999 (100.0%)
子ども会リーダー研修	288	
合 計	3,287	

表5-2 回答数（中学生以上）

		回答数
児童会館の所在地	中央区	75 (9.8%)
	北 区	117 (15.3%)
	東 区	122 (16.0%)
	白石区	68 (8.9%)
	厚別区	39 (5.1%)
	豊平区	77 (10.1%)
	清田区	34 (4.5%)
	南 区	34 (4.5%)
	西 区	99 (13.0%)
	手稲区	98 (12.8%)
	計	763 (100.0%)
青少年センター	42	
子ども会リーダー研修	140	
合 計	945	

(2) 年齢

アンケート回答者の年齢構成は、図5-1、図5-2のようになっている。

図5-1 年齢（小学生）(N=3,287)

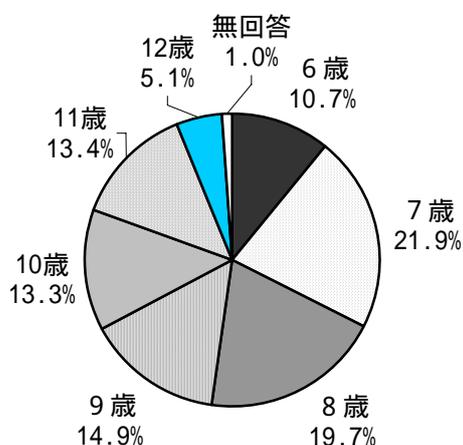
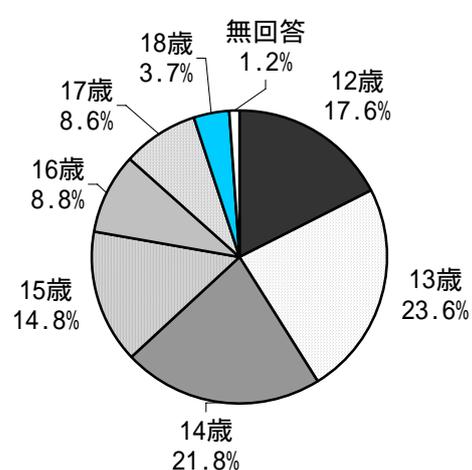
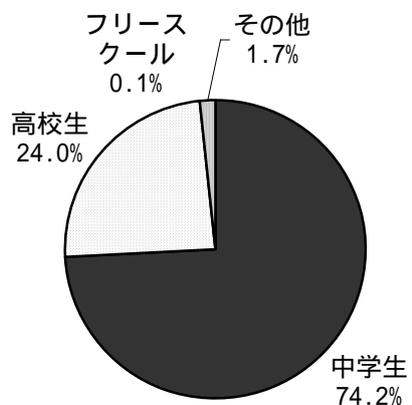


図5-2 年齢（中学生以上）(N=945)



また、中学生以上の内訳をみると、「中学生」が74.2%と最も高く、「高校生」は24.0%となっている。

図5 - 3 学校（中学生以上）(N=945)



(3) 性別

性別については、小学生では、「男性」が46.4%、「女性」が52.1%となっており、中学生以上では、「男性」が61.1%、「女性」が34.2%となっている。

図5 - 4 性別（小学生）(N=3,287)

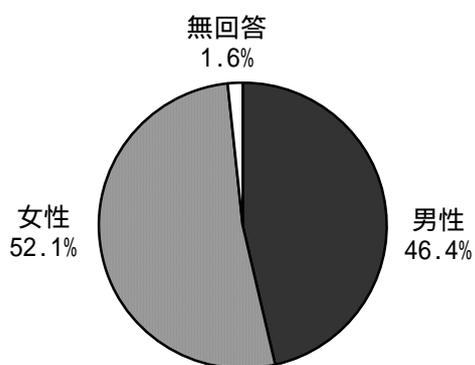
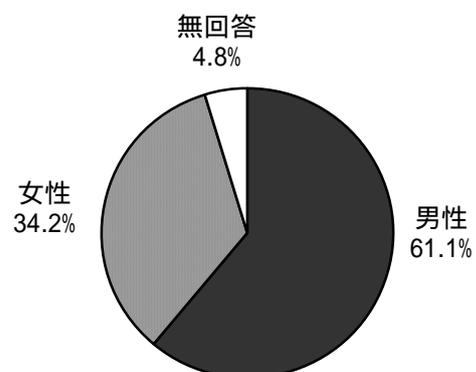


図5 - 5 性別（中学生以上）(N=945)



2. 自分のことが好きか

自分のことを好きかとたずねたところ、小学生、中学生以上ともに「どちらともいえない」が60%以上と高くなっている。また、小学生では、「好き」が「嫌い」を18.8ポイント上回っているのに対して、中学生以上では、「嫌い」が「好き」を1.9ポイント上回っている。

図5 - 6 自分のことが好きか
(小学生)(N=3,287)

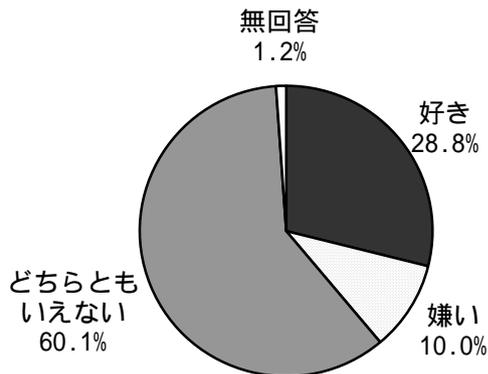
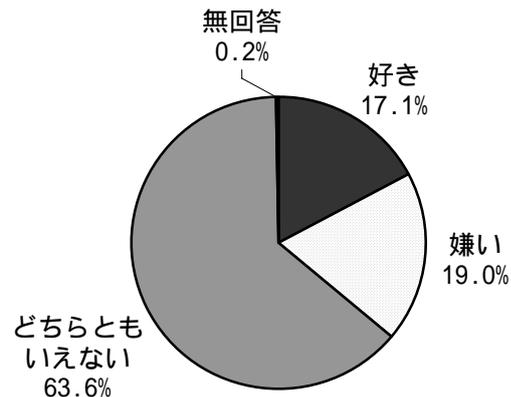


図5 - 7 自分のことが好きか
(中学生以上)(N=945)



3. 落ち着く場所、好きな所

落ち着く場所、好きな所をたずねたところ、小学生、中学生以上ともに、「家の中」が80%以上と高く、次いで「近所」、「自然の中」が60%以上となっている。一方、「落ち着ける場所がない」は約1%と低くなっている。

図5 - 8 落ち着く場所・好きな所
(小学生)(N=3,287、複数回答)

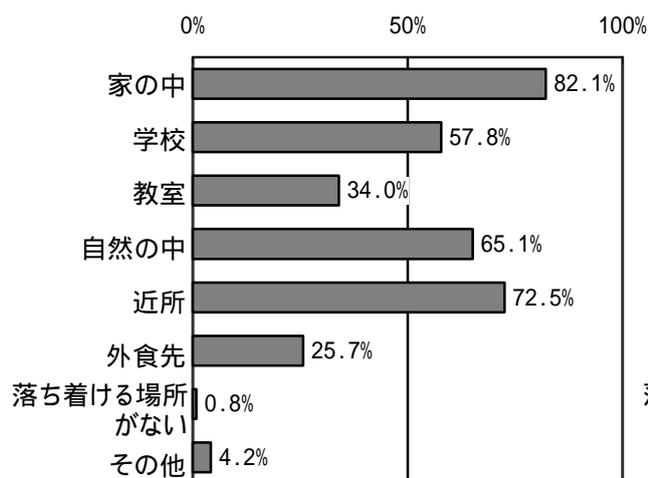
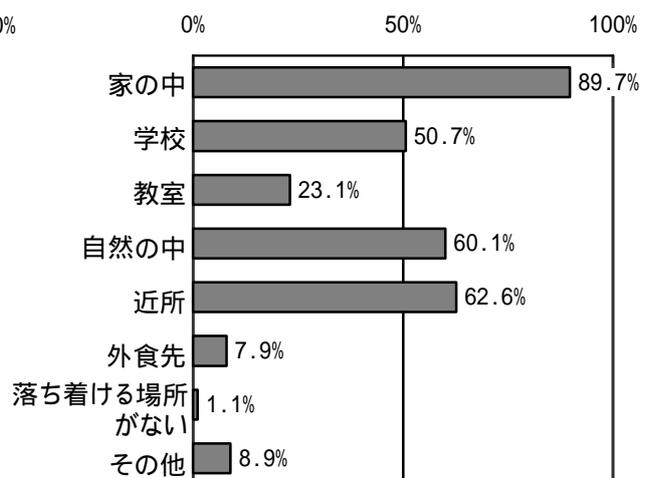


図5 - 9 落ち着く場所・好きな所
(中学生以上)(N=945、複数回答)



また、落ち着く場所・好きなところを詳細にみると、小学生では、「自分の部屋」が47.0%と最も高く、次いで「公園」が35.0%、「学校の教室」が33.8%、「自分の家の居間」が33.4%となっている。一方、中学生以上では、「自分の部屋」が68.8%と飛び抜けて高くなっており、次いで「学校の教室」が37.8%、「公園」が34.4%となっている。

図5 - 10 落ち着く場所・好きな所（詳細）
（小学生）(N=3,287、複数回答)

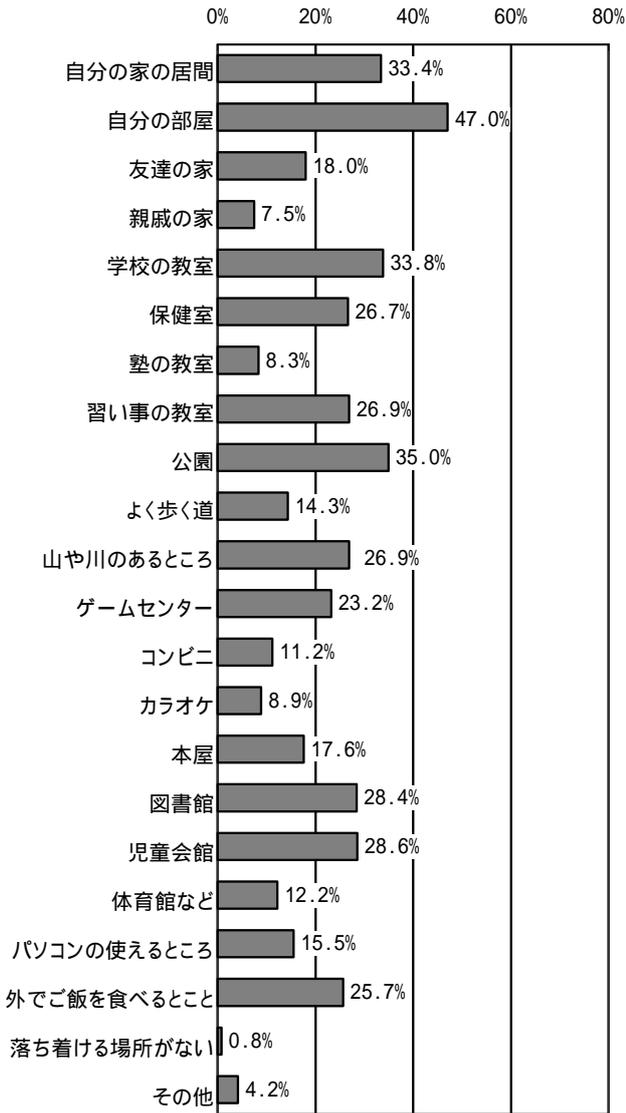
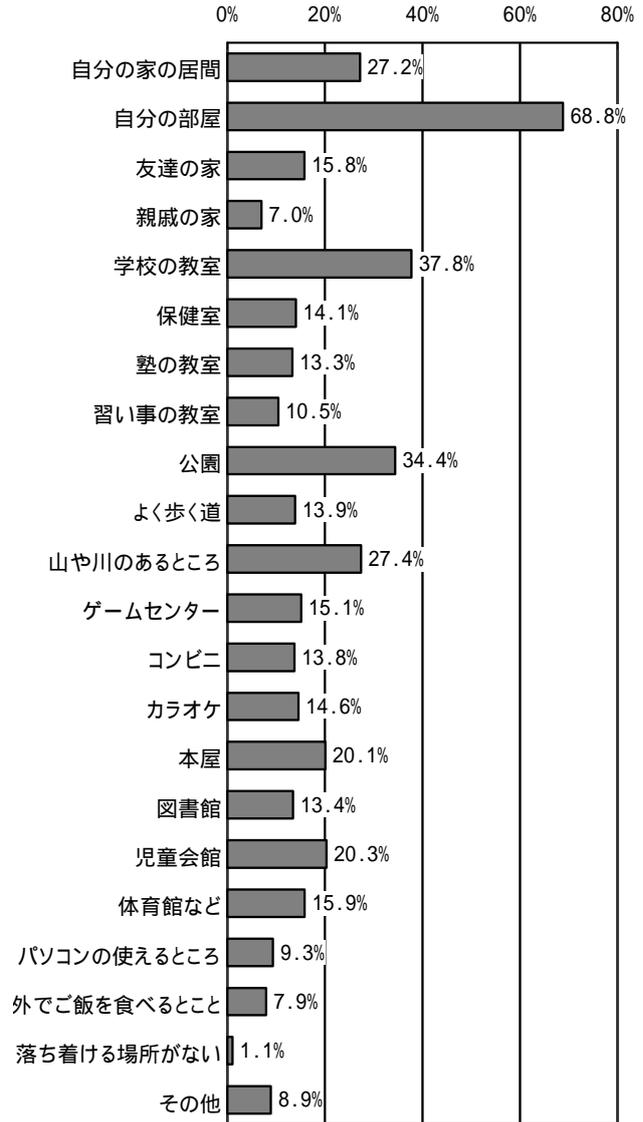


図5 - 11 落ち着く場所・好きな所（詳細）
（中学生以上）(N=945、複数回答)



4 . 楽しく、ほっとする時

楽しく、ほっとする時をたずねたところ、小学生では、「自宅にいるとき」が80.5%と最も高く、次いで「友達と過ごすとき」が76.9%となっている。一方、中学生以上では、「友達と過ごすとき」が82.6%と最も高く、次いで「自宅にいるとき」が79.3%となっている。

図5 - 12 楽しく、ほっとする時
(小学生)(N=3,287、複数回答)

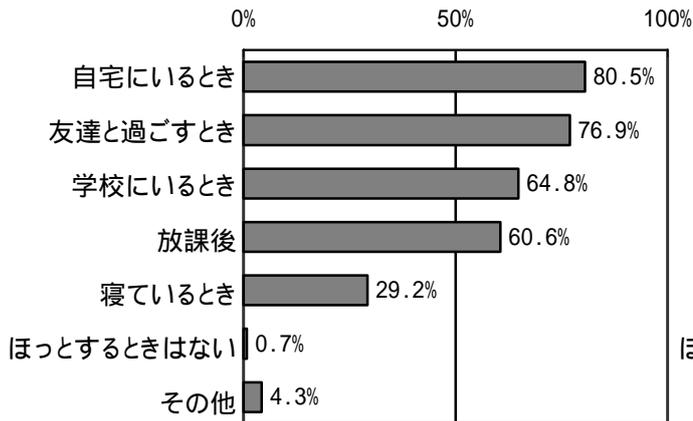
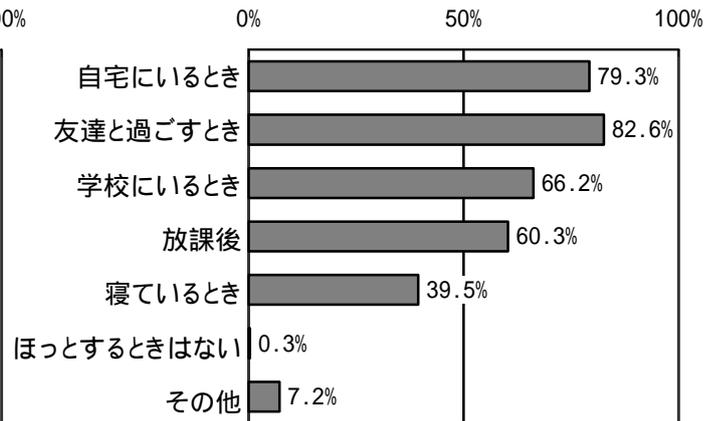


図5 - 13 楽しく、ほっとする時
(中学生以上)(N=945、複数回答)



また、楽しく、ほっとする時を詳細にみると、小学生では、学校にいるときの「休み時間のとき」が54.4%と最も高く、次いで、放課後の「遊んでいるとき」が48.2%、自宅にいるときの「テレビを見ているとき」が43.9%となっている。一方、中学生以上では、友達と過ごすときの「おしゃべりをしているとき」が58.1%と最も高く、次いで放課後の「遊んでいるとき」が54.4%、学校にいるときの「休み時間のとき」が49.4%となっている。

図5 - 14 楽しく、ほっとする時（詳細）
（小学生）(N=3,287、複数回答)

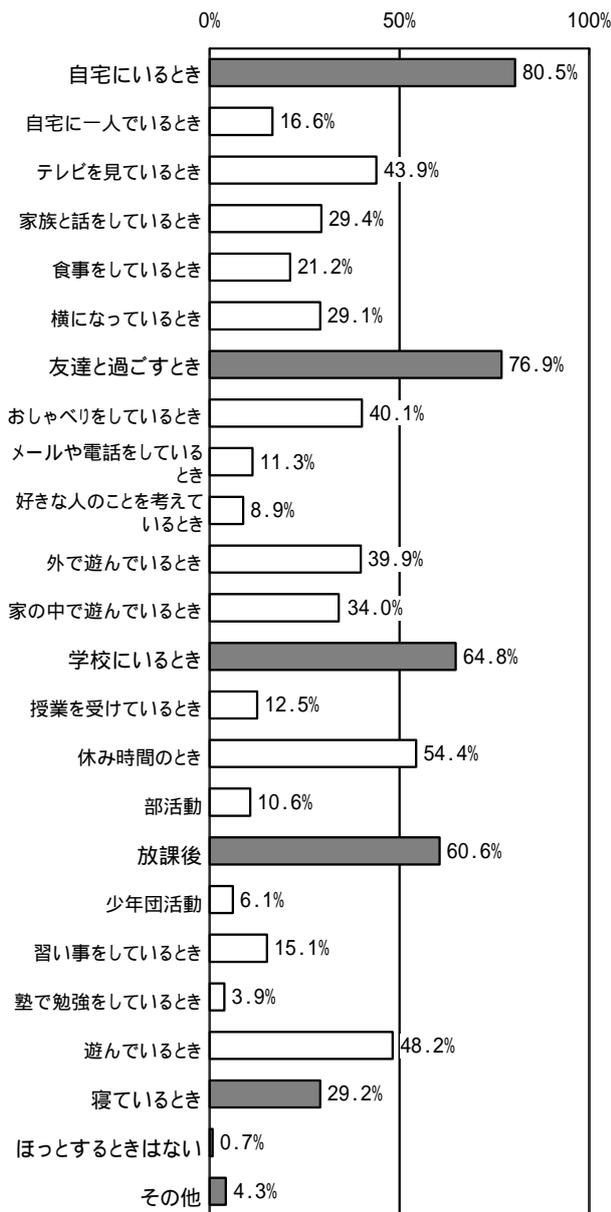
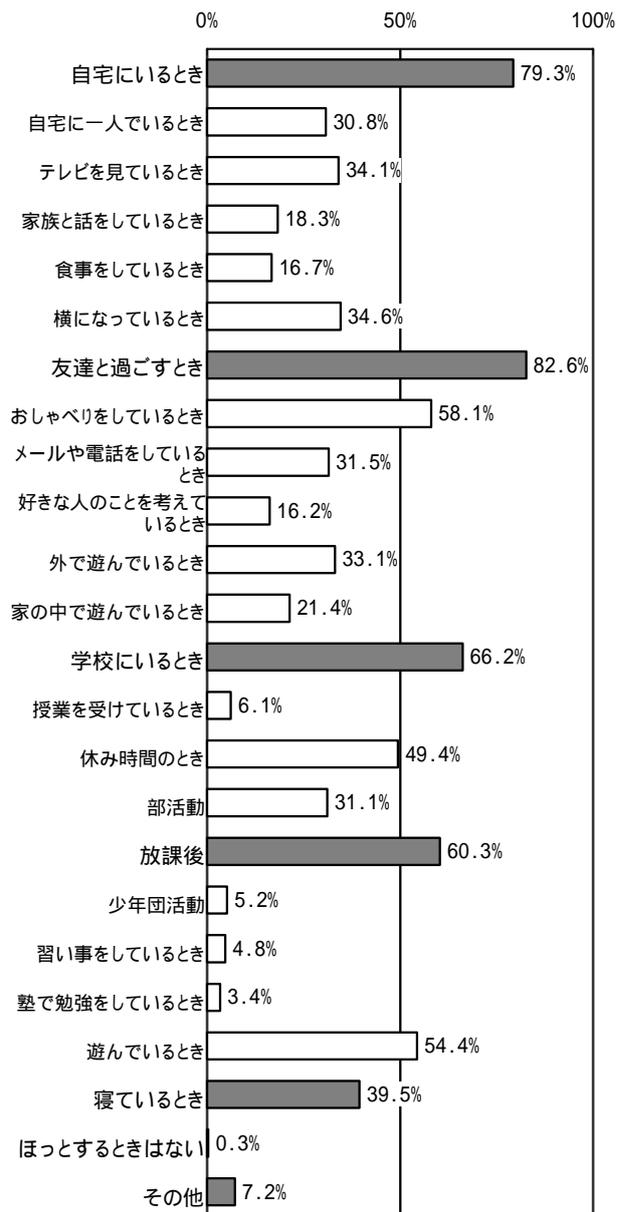


図5 - 15 楽しく、ほっとする時（詳細）
（中学生以上）(N=945、複数回答)



5. 本当は「やりたいこと」と思っているのに、できないこと

(1) 「やりたい」と思っているのに、できないことの有無

本当は「やりたい」と思っているのに、できないことをたずねたところ、小学生、中学生以上ともに「ある」が「ない」を上回っており、小学生では、「ない」より28ポイント、中学生以上では7.8ポイント高くなっている。

図5-16 「やりたい」と思っているのに
できないことの有無
(小学生)(N=3,287)

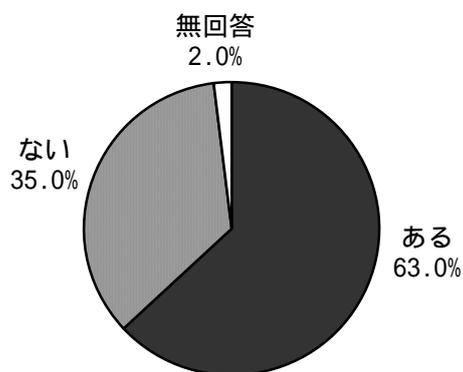
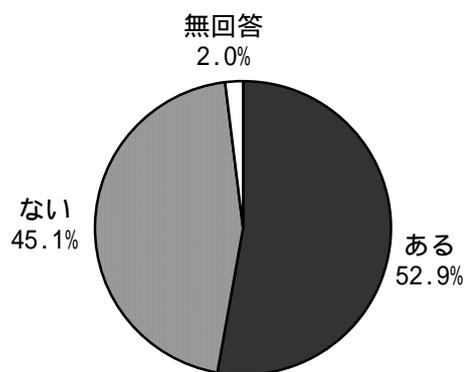


図5-17 「やりたい」と思っているのに
できないことの有無
(中学生以上)(N=945)



(2) 「やりたい」と思っているのに、できない理由

「やりたい」と思っているのに、できないことがあると答えた小学生2,070人と、中学生以上500人に、その理由をたずねたところ、小学生、中学生以上ともに、「時間がないから」がそれぞれ41.4%、47.2%と高くなっているものの、小学生では、「親にダメといわれているから」が41.7%と最も高く、一方、中学生以上では、「お金がないから」が48.4%と最も高くなっている。

図5-18 できない理由
(小学生)(N=2,070、複数回答)

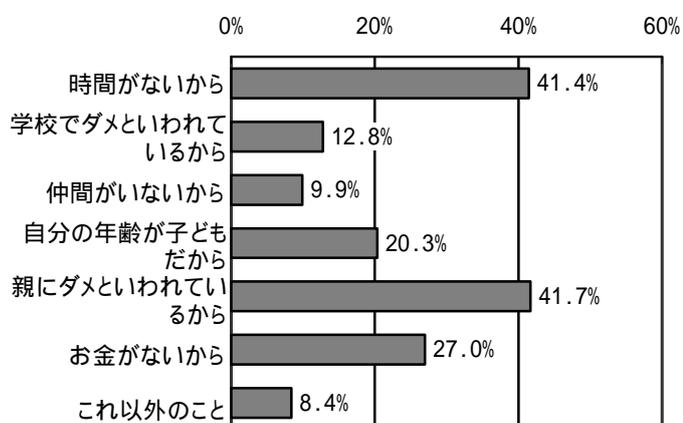
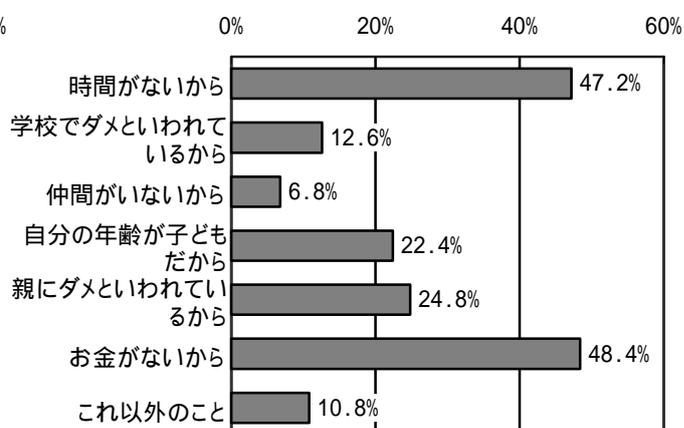


図5-19 できない理由
(中学生以上)(N=500、複数回答)



6 . 大切だと思うこと

大切だと思うことをたずねたところ、小学生では、「勉強すること」、「友達がいること」がともに50%以上と高く、次いで「遊ぶこと」、「大人の言うことを聞くこと」、「夢があること」が35%以上となっている。一方、中学生以上では、「友達がいること」が70.6%と最も高く、次いで「遊ぶこと」、「夢があること」が50%以上となっている。小学生では高い割合を示した「大人の言うことを聞くこと」は7.3%と低くなっている。

図5 - 20 大切だと思うこと
(小学生)(N=3,287、複数回答)

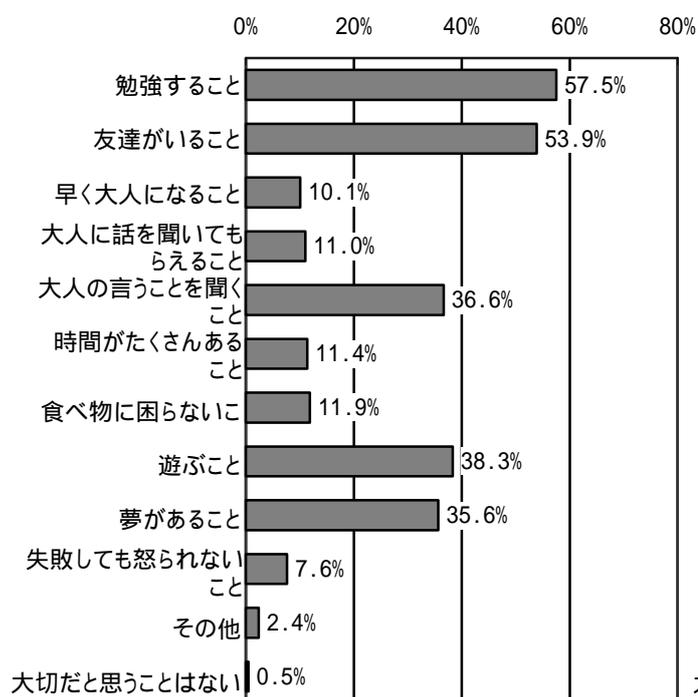
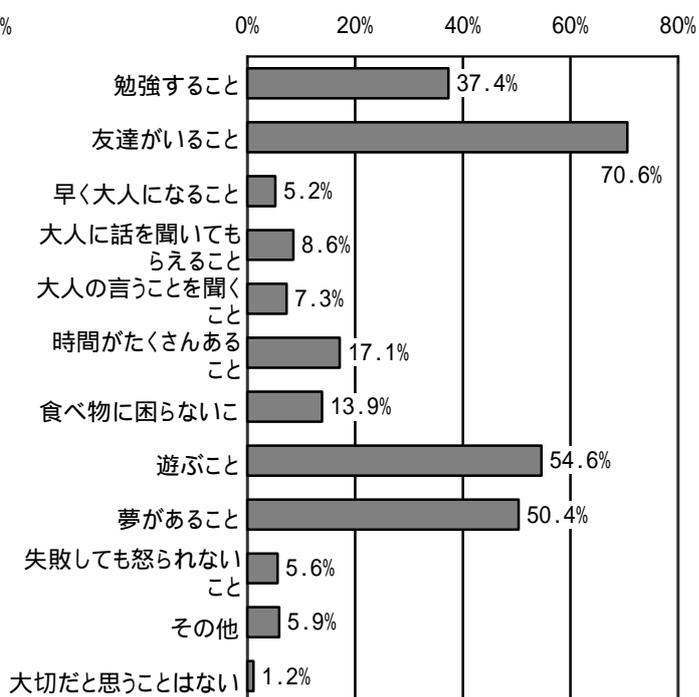


図5 - 21 大切だと思うこと
(中学生以上)(N=945、複数回答)



7. 大人にしてもらいたいこと

大人にしてもらいたいことをたずねたところ、小学生、中学生以上ともに、「自分のことは自分で決めさせてほしい」が最も高く、それぞれ33.3%、42.2%となっている。次いで、小学生では、「約束を守る」が28.1%、「もっと話を聞いてほしい」が27.9%となっており、中学生以上では、「友達や兄弟と比べない」が34.2%、「決まりや約束を押しつけない」が32.1%となっている。

なお、「してもらいたいことは特にない」は、小学生、中学生以上ともに10%以上となっている。

図5 - 22 大人にしてもらいたいこと
(小学生)(N=3,287、複数回答)

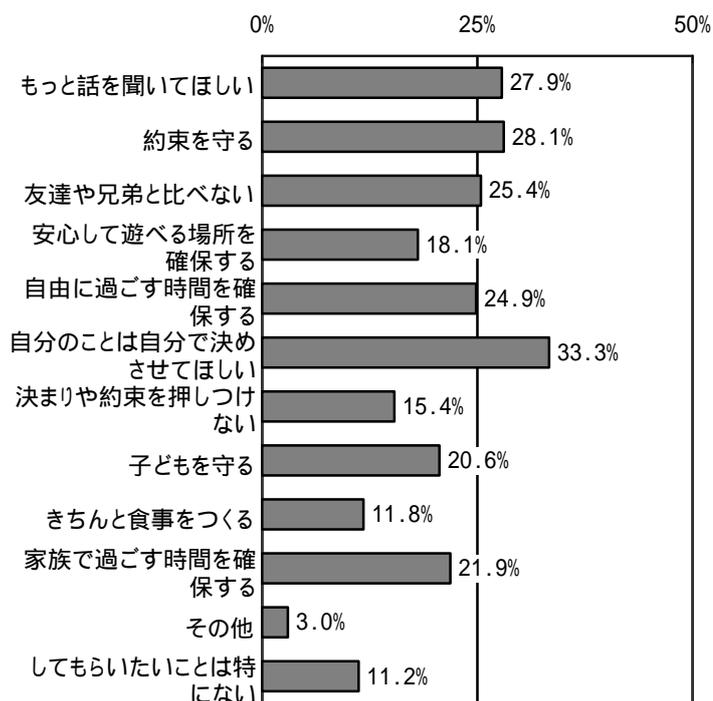
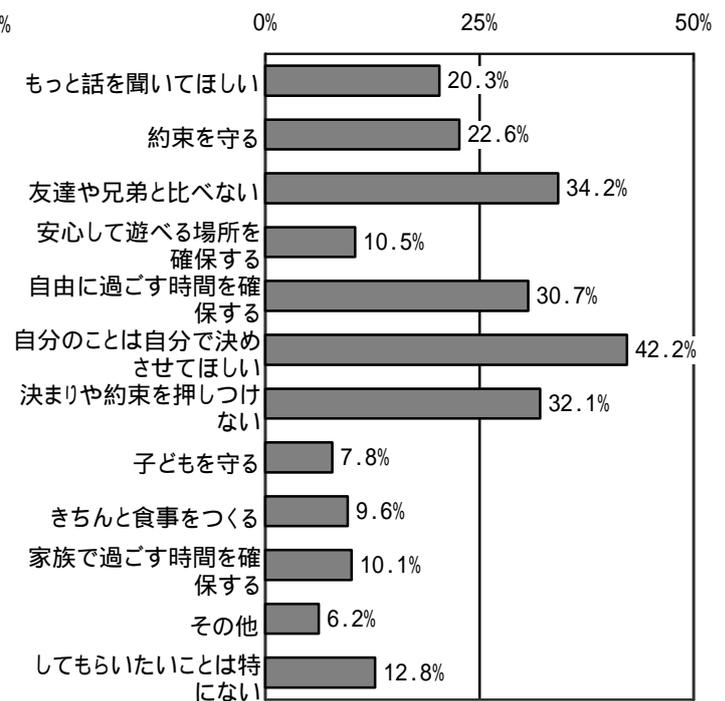


図5 - 23 大人にしてもらいたいこと
(中学生以上)(N=945、複数回答)



8. 今、悩んでいること

今、悩んでいることをたずねたところ、小学生では、「普通の勉強」が35.7%と最も高く、次いで「お金のこと」が27.3%、「友達のこと」が24.1%となっている。一方、中学生以上では、「受験や進路」が45.4%と最も高く、次いで「普通のこと」が43.2%、「将来のこと」が36.2%となっている。

なお、小学生では、「悩んでいることは特にない」が17.8%となっている。

図5-24 今、悩んでいること
(小学生)(N=3,287、複数回答)

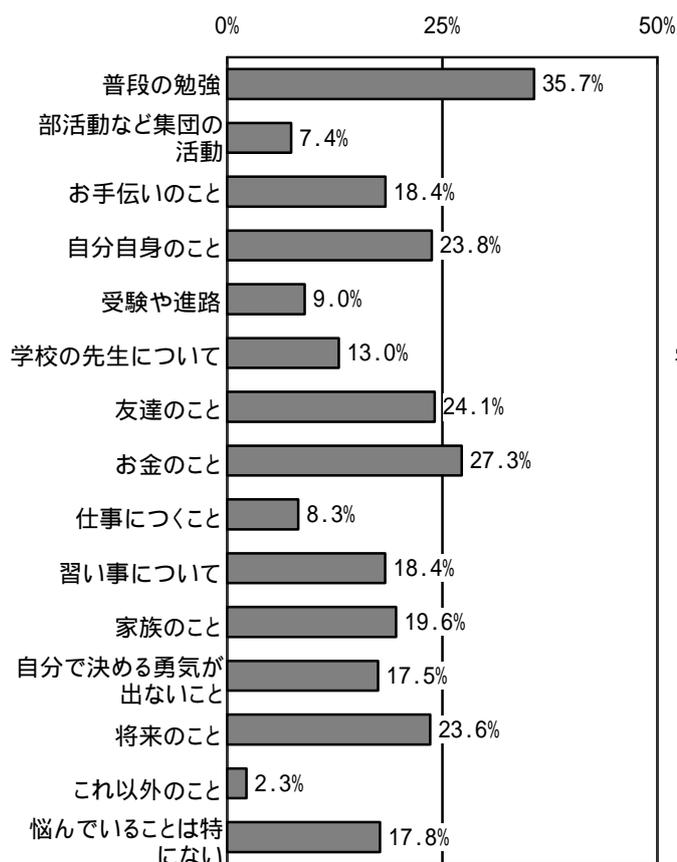
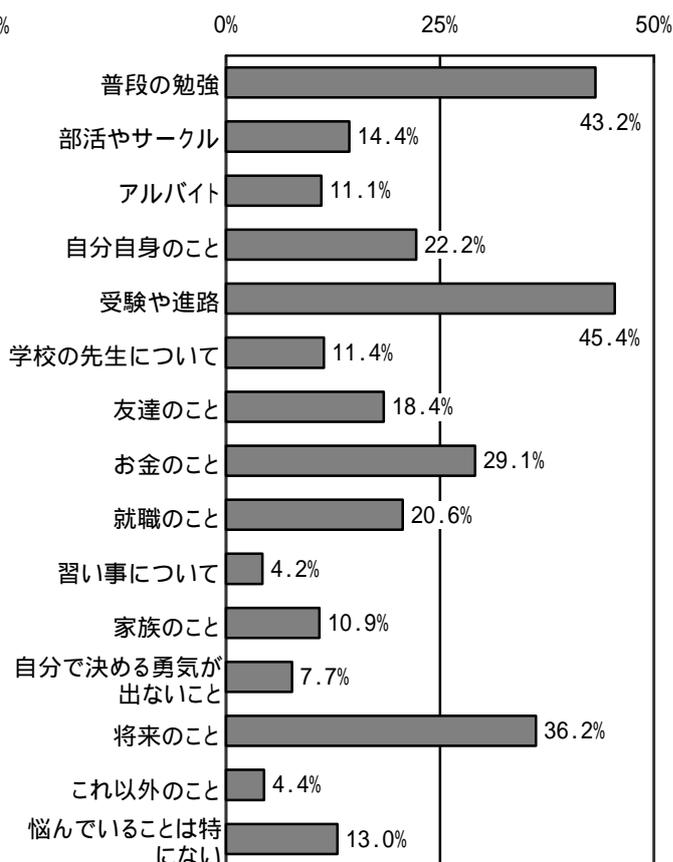


図5-25 今、悩んでいること
(中学生以上)(N=945、複数回答)



9. 困っているときに相談する人

困っているときに相談する人をたずねたところ、小学生では、「親」が66.8%と最も高く、次いで「学校の友達」が43.7%、「学校の先生」が24.8%となっている。一方、中学生以上では、「学校の友達」が61.2%と最も高く、次いで「親」が34.9%、「学校以外の友達」が21.1%となっている。

なお、中学生以上では、「相談する人は誰もいない」が11.7%となっている。

図5-26 困っているときに相談する人
(小学生)(N=3,287、複数回答)

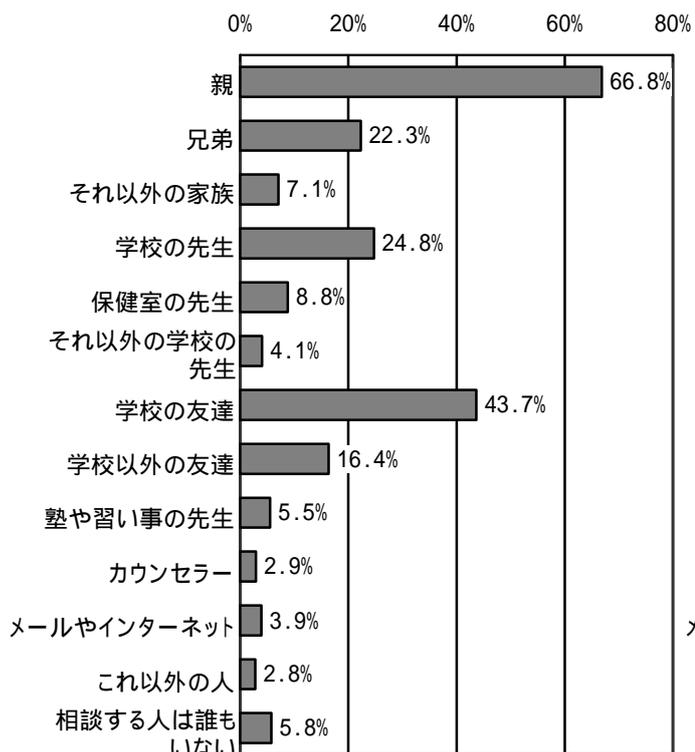
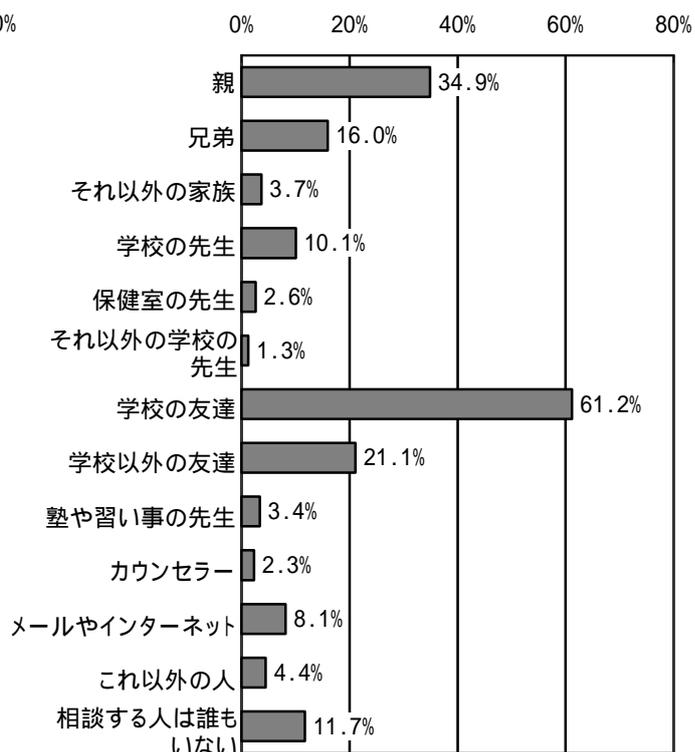


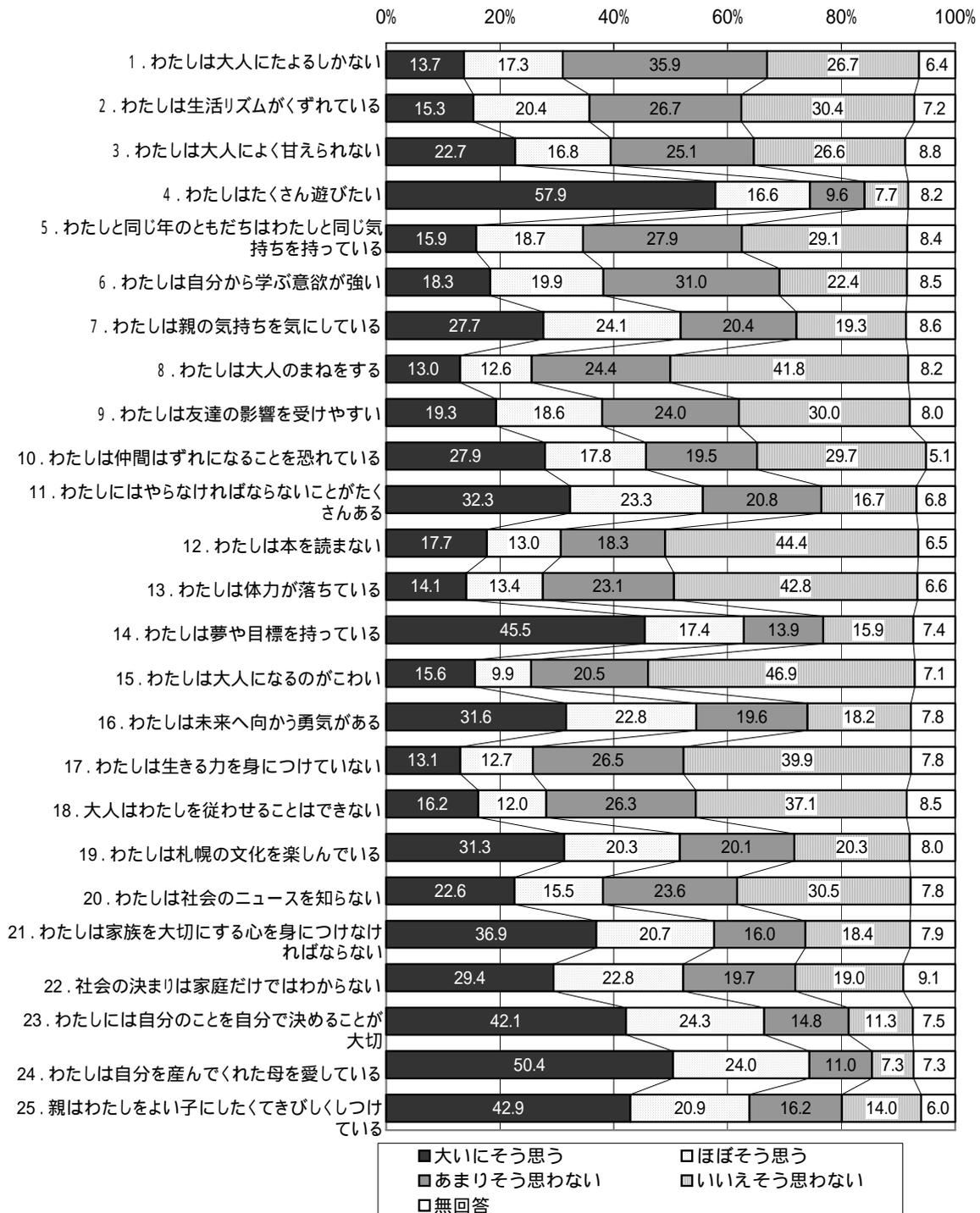
図5-27 困っているときに相談する人
(中学生以上)(N=945、複数回答)



10. 現在感じている子どもの姿

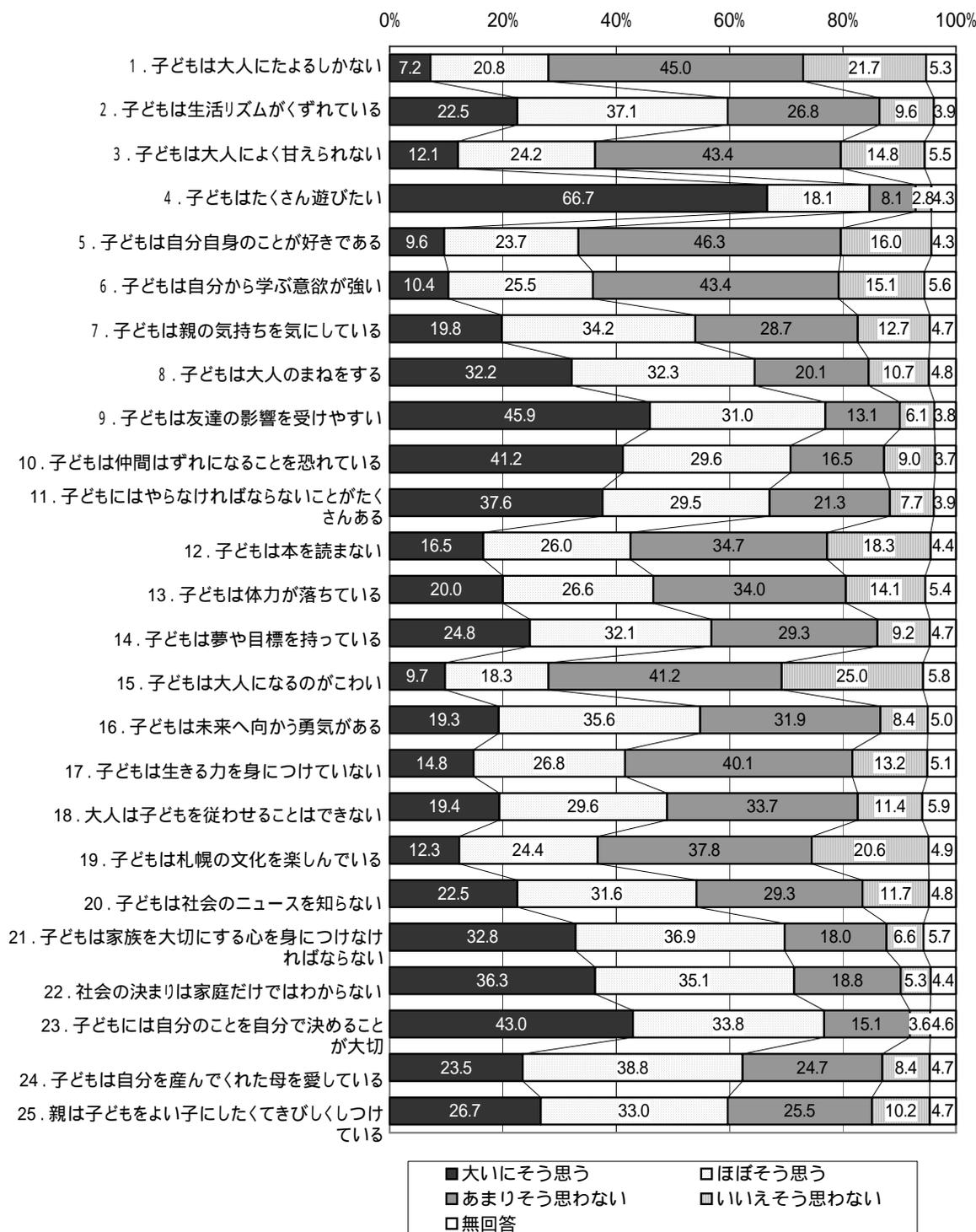
小学生に、現在感じている自分の姿をたずねたところ、「4.わたしはたくさん遊びたい」、「24.わたしは自分を産んでくれた母を愛している」、「14.わたしは夢や目標を持っている」において、「大いにそう思う」の割合が高くなっている。

図5 - 28 自分の姿（小学生）(N=3,287)



中学生以上に、現在感じている子どもの姿をたずねたところ、「4.子どもはたくさん遊びたい」、「9.子どもは友達の影響を受けやすい」、「23.子どもには自分のことを自分で決めることが大切」、「10.子どもは仲間はずれになることを恐れている」において、「大いにそう思う」の割合が高くなっている。

図5 - 29 子どもの姿 (中学生以上) (N=945)



11. 「子どもの権利条例」づくりの認知度

札幌市が「子どもの権利条例」づくりに取り組んでいることを知っているかをたずねたところ、小学生では、「知っている」が13.8%、「知らない」が73.9%となっている。中学生以上では、「知っている」が29.4%、「知らない」が65.2%となっている。

図5 - 30 「子どもの権利条例」づくりの認知度
(小学生)(N=3,287)

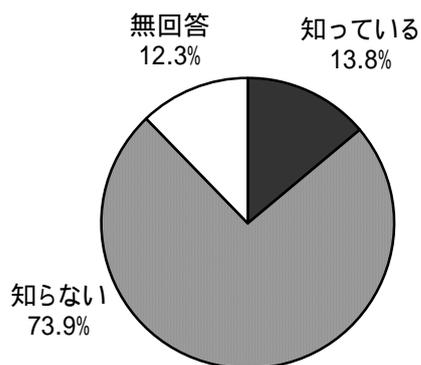
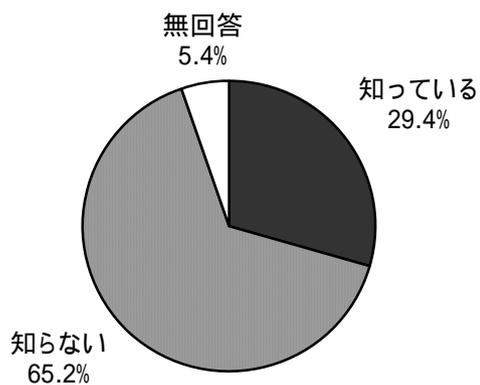


図5 - 31 「子どもの権利条例」づくりの認知度
(中学生以上)(N=945)



第6章 自由記述

1. 小学生の自由記述

小学生の自由記述は、懇談会・出向き調査では69人から、児童会館・子ども会リーダー研修では92人からあり、それぞれ表6-1、表6-2のようにまとめられる。

表6-1 自由記述【小学生（懇談会・出向き調査）】

分類	件数
1 親への要望 ・もっと話を聞いてほしい ・もっとすぐに気づいてほしい など	6
2 大人への要望 ・塾や習い事は子どもの意見を聞いてからの方がよいと思う ・よいこと、悪いことを丁寧に話す など	3
3 教師への要望 ・特定の生徒だけをひいきしないでほしい ・言葉使いに気をつけてほしい など	4
4 いじめについて ・友達をいじめることと暴力はやめたほうがよいと思う など	6
5 遊ぶ時間 ・もっと遊びたいが、時間がない など	4
6 遊ぶ場所 ・子どもだけで安心して行ける所をもっと増やしてほしい ・学校でもっと遊びたい など	5
7 子どもの権利条例について ・権利条例をたくさんつくって、今よりよい札幌市にしてほしい ・子どもの権利条例をつくっても守らない大人がいる など	4
8 自分に対して ・自分のことは自分で決める ・自信を持つ など	7
9 懇談会について ・いろいろと自由に話せたのでよかった ・あまり楽しくなかった、緊張した など	21
10 その他 ・自然を多くしてほしい など	9
合計	69

表6 - 2 自由記述【小学生（児童会館・子ども会リーダー研修）】

分 類	件数
1 親に対して ・お父さんとお母さんはちょっと厳しいと思う ・遠くへ行っていいようにしてほしい。「みんなで決めよう」を増やしてほしい など	12
2 大人に対して ・大人は勝手だ ・タバコを吸う人が多いから少なくしてほしい など	3
3 児童会館について ・児童会館面白い ・児童会館でのゲームを増やしてほしい ・この頃ボランティアがいないので増やしてほしい など	19
4 遊びについて ・子どもだけの大きな遊ぶところがほしい など	2
5 命について ・人を殺すのは許せない など	2
6 いじめについて	2
7 自分に対して ・家にいるのがつらいと思う ・もっと友達とのコミュニケーションをとれたらいい ・あまり周りに影響されないようにしたいが少し迷う など	7
8 子どもの権利条例について ・権利条例とはなんですか	1
9 アンケートについて ・おもしろい問題で楽しかったです ・質問が難しかったです ・自分の気持ちがわかりました など	36
10 その他	8
合 計	92

2. 中学生以上の自由記述

中学生以上の自由記述は、懇談会・出向き調査では98人から、児童会館・青少年センター・子ども会リーダー研修では90件あり、それぞれ表6-3、表6-4のようにまとめられる。

表6-3 自由記述【中学生以上（懇談会・出向き調査）】

分 類	件数
1 大人への要望 ・大人が子どもを信じなければ、子どもは大人を信じないと思う ・大人だけの目で子どもを判断しないでほしい ・大人と行政がしっかりすれば、子どもの生活はよくなる など	13
2 意見交換の場について ・大人と子どもとで意見を交わすとよいと思う ・子どもが意見を言える場をもっともっとつくってほしい など	11
3 総合学習について ・学校で「子どもの権利」について学ぶ場が必要だと思う ・懇談会を開くより、学校で1年に1度学ばせるべき など	5
4 子どもの権利条例について ・子どもの思いを取り入れた条例にしてほしい ・この条例がもっと身近になるように周知してほしい ・権利条例ができたとしても期待をもつことはありません ・権利なんてものがあるから逆に変な人が出てくるので、いっそ権利を無くして、全部自分の責任にしてみるのもいいと思う など	21
5 懇談会について ・いろいろな人の意見を聞くことができ、勉強になった ・同じ年の人たちと普段しない話ができうれしかったし楽しかった ・子どもの権利について知ることができた ・内容がわからなかった など	37
6 その他 ・プライバシーを侵害しないでほしい ・塾を無くし、生徒と生徒の差も無くし、学校でみんなと一緒に進んでいきたい ・子どもの権利も大切だと思うが、貧しい大人もいるから、ちゃんと考えてあげた方がいい など	11
合 計	98

表6 - 4 自由記述【中学生以上（児童会館・青少年センター・子ども会リーダー研修）】

分 類	件数
1 親に対して ・もっと自分の意見を聞いてほしい ・自分のことは自分で決めるから親に言われたくない など	10
2 大人に対して ・大人はあまり子どもの気持ちを考えていない ・大人は都合がいいと思う など	14
3 学校について ・学校は規則が厳しすぎる ・子どもの教育時間を減らしてほしい など	5
4 児童会館について ・児童会館の先生は子どもたちが話していることを聞いてくれないことがある ・さわげる場所が少ない など	8
5 子どもについて ・大人にしてほしいことを積極的に話す ・今の子どもにはパッションが足りない気がする ・子どもは一人で生きる力があると思う など	16
6 子どもの権利条例・子どもの権利条約について ・条例ができてても自分的には特に意味はないと思う ・子どもの権利条約があることも知らなかった など	5
7 自分に対して ・自分を好きになってからあまり悩むことはなくなりました。 ・居場所がない など	6
8 アンケートについて ・このような統計をとってもあまり解決にはつながらない気がする ・自分を見つめ直すのに大いに役立ちました など	13
9 その他 ・少しでも子どもが変われば社会も大人も周りの子どももみんなが変わりよい環境をつくることができます など	13
合 計	90

3. 大人の自由記述

大人の自由記述は、懇談会・出向き調査を合わせ380人からあり、表6 - 5のようにまとめられる。

表6 - 5 自由記述

分 類	件数
<p>1 子どもの権利条例について</p> <p>権利と義務について(24)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権としての権利には何ら義務は生じないという当然のことは知ってほしい ・権利が守られることと、守らなければならない人間としての義務があることも教えていかなければならないと思う など <p>実効性について(20)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条例ができた後、どう活用されていくのかが問われると思います ・教育委員会を取り込んだ活動をしなければ、条例ができて実効性にかけると思うので、もっと取り込む活動をしてほしい など <p>周知について(33)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民に「子どもの権利条例」が広く知られることを望みます ・市民ひとりひとりに浸透させ、どう理解してもらうかに、力を入れて取り組んでほしいと思います など <p>子どもの権利条例についてのその他の意見(29)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権利条例を作るにあたっては、子どもの視点で考えてもらいたい ・親のいない子どものための権利を盛り込んでください ・何のためにこの条例を制定するのかがわからない ・条例として制定する必要があるのかどうか疑問 など 	106
<p>2 権利について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権利に、能力に応じてとか年齢に応じてなどといった条件をつけないでほしい ・今の若い親や子供は、「権利」を主張しすぎていないか など 	8
<p>3 環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自由に遊べる公園を作ってほしい ・区民センターのホールなど、子ども会や少年団には無料で開放してほしい ・子どもたちが幸福に生活していけるような環境を整えてほしい など 	26

(次ページへ続く)

分 類	件数
4 大人に対して <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが幸せに育つように大人が見守っていくことが大切 ・子どもも一人の意思、人格を持った人間だとしっかり受け止めなければならない ・何らかの活動に参加するとき、まず子どもの意見、気持ちを聞いてほしい。大人が決めていることが多く見受けられる など 	23
5 地域での子育て <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会が一緒になって子どもを守り、子どもを主体とした生活をしてほしい ・地域全体で子育てして、親の育児能力も上がればよいと思う など 	20
6 親の教育 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利を守るためには、親の教育、意識改革が必要 ・子どもの姿はやはり親の影響が大きいと思う。親の教育をどのようにしていくか など 	15
7 子育て支援について <ul style="list-style-type: none"> ・安心して子育てをできる環境がつけられることが、子どもを守ることに繋がると思う ・子どものことだけでなく、子どもを育てる環境、子どもを育てる親について根本的に考え直した方がよい など 	10
8 学校について <ul style="list-style-type: none"> ・現在の学校には、校則など子どもの権利が守られていない面がある ・学校の教育として、子どもの権利条例に関する学習内容を実施してほしい など 	10
9 意見交換の場 <ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとでもよいのでコミュニケーションを取れる場があればよい ・違う立場の人たちとも意見交換をしてみたい など 	9
10 虐待について <ul style="list-style-type: none"> ・子どもがあらゆる暴力や人権侵害から逃れられる仕組みを構築すべき など 	4
11 行政への要望 <ul style="list-style-type: none"> ・札幌市の予算を、子どもたちの育ちのために多くしてほしい など 	12
12 子どもを取り巻く環境 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもがゲーム、インターネット、メールで過ごす時間が増えている。利点もあるが害も多く考えられるので対策が必要 など 	6

(次ページへ続く)

分 類	件数
13 社会に対して ・子どもに関わる担当部分だけではなく、企業をはじめ社会全体と力を 合わせてほしい など	5
14 障がいのある子どもについて ・障がいのある子どもが地域で「皆と一緒に」が当たり前になるように、 取り組んでほしい など	4
15 懇談会について ・もっと時間がほしかった ・いろいろな意見を聞けて勉強になった など	59
16 アンケートの不備について ・何歳以上の子どもを対象にしているのか。もう少し詳細な説明が必要 ・設問が少々の外れになっている など	8
17 事務局に対して ・会議、スケジュールをただこなしているように見える。どうフィード バックするのか など	14
18 その他 ・子どもの委員会を設置してほしい ・何よりも子どもの生命を守ることが全てに優先する事柄だと思う ・今の子どもが大人になったら、どんな世の中になっているのだろうと 考えると不安になる など	41
合 計	380

1. 子どもの調査結果（第5章）の考察 ～ 「札幌の子ども像」 ～

（1）自分のことが好きか

今回、子どもの調査では、「自分のことが好きですか」という質問をしています。その結果、小学生は28.8%が「好き」、「どちらともいえない」が60.1%、「嫌い」が10.0%でした。一方、中学生以上では、17.1%が「好き」、「どちらともいえない」が63.6%、「嫌い」が19.0%です。

一般に、自分のことが好きなのは、プライドや自信の表れとみることができます。言い換えると、周囲の人々との関わりが良ければ、自分に対しても肯定的になれるのです。子どもの自我の発達を加味すると、単純に比較することはできませんが、この結果からは、自己肯定感の強いのは、中学生以上よりも、小学生であることがわかります。

しかし、小学生で自分のことが嫌いと答えた子どもが10.0%、中学生以上では19.0%に達します。こうしたことから、子どもたちは、小学生の時期からストレス状態に置かれており、この傾向は中学入学以降、一層強まっているのではないかと考えられます。

この状況を緩和するには、子どもを育むにふさわしい環境を大人が用意しなくてはなりません。その第一歩はどのような立場の大人であっても、子どもを信頼することではないでしょうか。

(本編 34 ページ参照)

（2）落ち着く（ほっとする）場所、好きな場所

また、楽しくほっとする時

子どもたちにとって、本当に落ち着くのは自分の部屋のように。「落ち着く場所、好きな場所」は、「自分の部屋」が最も多く、小学生が47.0%、中学生以上では68.8%の子どもが回答しています。

しかし一方で、子どもたちが楽しく、ほっとする時は、「自宅にいるとき」と並んで「友達と過ごすとき」が小学生で76.9%、中学生以上では82.6%となっています。今の子どもは、人と関わることが苦手と言われますが、やはり、子どもたちが抱えるストレスは、こうした子ども同士のコミュニケーションの場でその大半が解消されているのではないのでしょうか。

(本編 34～37 ページ参照)

（3）本当は「やりたいこと」と思っているのに、できないこと

また、「やりたい」と思っているのに、できない理由

やりたいことがあってもできないと答えたのは、小学生で63.0%、中学生以上で52.9%となっています。今回の調査では、やりたいことについて具体的に聞いていませんが、できない理由で最も多いのは、小学生が「親にダメといわれているから」、中学生以上では「お金がないから」となっています。しかし、小学生、中学生以上に共通しているのは、「時間がないから」ということです。子どもたちの多忙さの一端をうかがうことができます。

(本編 38 ページ参照)

（4）大切だと思うこと

子どもが「大切だと思うこと」は、小学生では57.5%が「勉強すること」をあげています。

次いで「友達がいること」が53.9%で、以下「遊ぶこと」「大人のいうことを聞くこと」「夢があること」の順です。中学生以上では、「友達がいること」が70.6%、「遊ぶこと」と「夢があること」が50%を超えます。以下、「勉強すること」、「時間がたくさんあること」と続きます。

「楽しく、ほっとする時」や「困っているときに相談する人」の質問とも関連しますが、子どもにとって、友だちとの人間関係の構築はきわめて重要であり、それゆえに、子どもたちの悩みやストレスの大きな要因ともなり得るといえるのではないのでしょうか。

(本編 36,37,39,42 ページ参照)

(5) 大人にしてもらいたいこと

大人にしてもらいたいことについては、小学生、中学生以上ともに「自分のことは自分で決めさせてほしい」(小学生 33.3%、中学生以上 42.2%)が上位にあがっています。大人にはこうした子どもの意思表示を、正面から受け止める責任があるのではないのでしょうか。その他、小学生からは、「約束を守る」、「もっと話を聞いてほしい」、「友達や兄弟と比べない」、中学生以上では、「友達や兄弟と比べない」、「決まりや約束を押しつけない」等が挙げられており、家庭あるいは学校等における、子どもと大人のコミュニケーションのあり方を考えさせられる結果となっています。

(本編 40 ページ参照)

(6) 今、悩んでいること

子どもたちが今、悩んでいることは、小学生は、「普段の勉強」、「お金のこと」、「友達のこと」となっています。中学生以上になると、「受験や進路」の悩みが最も多く、次いで「普段の勉強」、「将来のこと」となっています。子どもは、成長とともに「自己実現」にかかわる課題を強く意識するようになるといえます。

(本編 41 ページ参照)

(7) 困っているときに相談する人

困っているときに相談する人は、小学生では、「親」、「学校の友達」、「学校の先生」の順となっていますが、中学生以上になると、順位が入れ替わり、「学校の友達」、「親」、「学校以外の友達」となります。しかし、ここで問題なのは、相談相手のいない子どもが、小学生で5.8%、中学生では11.7%いるという現実です。誰にも相談できずに一人で悩みを抱えている子どもたちに対する、救済の仕組みづくりが望まれます。

(本編 42 ページ参照)

(8) 現在感じている子どもの姿(自分の姿)

多数の質問の中で、注目すべき点は、小学生、中学生ともに、「たくさん遊びたい」と回答した子どもが最も多かったことです。学校の勉強だけでなく、塾や習い事に忙しい現代の子どもたちの気持ちが端的に表れているといえます。

しかし、「夢や目標を持っている」については、小学生と中学生以上とでは大きな違いが見られます。中学生以上になると、半数の子どもが「夢があること」が大切だと思うと答えているものの、「子どもは夢や目標をもっている」と回答する子どもが非常に少なくなります。現実吟味が進み発達したともいえますが、将来像が描きにくい時代に育つ今の子どもたちの、一面ともいえるのではないのでしょうか。

なお、この質問については、小学生に対する質問の中では「自分の姿」に限定して聞いています。この年齢段階の子どもは、自分を含めた子ども全体に対する認識を十分に持っていないと考え、答えやすい聞き方を採用しています。

(本編 43～44 ページ参照)

2. 大人の調査結果(第3章)の考察 ～ 札幌の大人の「子ども観」 ～

(1) 子どもにとって一番大切だと思うこと

子どもにとって大切なことについて、大人は、「愛されて育つこと」、「健康であること」、「将来の夢があること」、「友達がいること」、「個性が尊重されること」と答えています。「勉強すること」と答えた大人の割合は、この質問の選択肢の中で低くなっています。本音と建前の問題もあると思いますが、多くの大人の率直な気持ちであると言えるでしょう。これらは、子どもが育つ条件として必要なものです。これら一つひとつを支援する大人の役割も大切です。

(本編 20 ページ参照)

(2) 子どもにしてあげたいこと

子どもにしてあげたいことについてみると、「もっと話を聞いてあげること」、「家族で過ごす時間を確保する」、「子どもを守る」、「自分のことは自分で決めさせる」の順です。

核家族化と女性の社会進出の進展にともなって、保護者と子どもと一緒に居る時間、家族の対話の時間が減っているのではないのでしょうか。これらの回答は、大人が普段子どもに十分にあげることが出来ていない事柄と認識している、と読み換えることもできると思います。

(本編 21 ページ参照)

(3) 子どもたちに欠けていると思われる環境

子どもたちに欠けていると思われる環境として指摘しているものは、「豊かな自然の中で活動させる機会を増やす」が最も多く、半数以上の方が回答しています。次いで、「子どもの遊び場がたくさんある」、「学校の勉強以外のことにも打ち込める」の順です。大都市となった札幌には、身近に自然が少なくなっていると感じている大人が多いのではないのでしょうか。

(本編 22 ページ参照)

3. まとめ

今回のアンケート調査から「札幌の子どもたち」の特徴の一端を見出すことが出来ました。回答結果には、過度に競争的な社会、人間関係の希薄さ、コミュニケーションや対話の不十分さ、幼児期の過ごし方や体験の質、遊びの不足といった、子どもたちを取り巻く社会環境が、大きく影響していると考えられるものもあります。今後、札幌において子どもたちにやさしいまちづくりをクローズアップしていかなければならないでしょう。

最後に、「子どもの権利条約づくり」の認知度については、小学生では73.9%、中学生以上でも65.2%の子どもが知らないと回答していました(平成17年9月時点)。

「子どもの権利条約」制定プロセスにおいて、条約づくりの取組の広報と、子どもの権利の普及に一層の工夫をしていくことが必要です。

子どもの気持ち・あなたの子ども観アンケート
調査結果に関する報告書
札幌市子どもの権利条例制定検討委員会 中間答申書別冊

(お問い合わせ先)

事務局：札幌市子ども未来局子ども育成部子どもの権利推進課

住所：〒060-0051

札幌市中央区南1条東1丁目

大通バスセンタービル1号館3階

電話：011-211-2942 FAX：011-211-2943

E-Mail：kodomo.kenri@city.sapporo.jp

ウェブページ「子どもの権利ウェブ」:

<http://www.city.sapporo.jp/kodomo/kenri>